防災教育チャレンジプラン

平成２３年度

高塚台２丁目自治会

活動成果・成果品写真

防災教育チャレンジプラン

活動マニュアル

実践団体名　高塚台２丁目自治会　(学校を巻き込んだ、防災・防犯を一体化した地域の安全・安心向上作戦)

■基礎データ

① タイトル	2011内閣府防災教育チャレンジプラン応募から総合学習の取り組みまで
② 活動の概要	自治会区域内における防犯･防災活動から近隣の小学校を巻き込んだ防犯･防災活動の展開。
③ 目標・ねらい	近隣小学校児童と一緒に防犯･防災を一体化した活動を展開することにより、児童のみならず、児童の若い世代の両親、家族の防犯･防災意識の高揚を図り、それが地域の住民全体に拡がり地域の安心･安全の向上に繋がる。
④ 活動で上げることができる力・能力	地域住民全体の防犯･防災意識高揚が図られ、自分の命は自分で守り、被災時には近隣で助け合う心を育てる。
⑤ 対象者（受ける側）	河合町第三小学校五年生、六年生を主体者とし、学習で得た経験、知識を３小の全学年(266名)、保護者、地域住民に成果発表。
⑥ 活動・作業形態	総合学習時間を利用し防犯･防災の授業を行い、その成果をｸﾞﾙｰﾌﾟ単位（６～７名）でテーマを決めて成果発表を行う。
⑦ 準備するもの（道具、材料等）	
⑧ 所要時間	一学期の総合学習時間を使用し行う。五年生：２時限(４５分×２)×１１日、六年生　：２時限(４５分×２)×１０日
⑨ 必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	自治会内防災士４名、町内防災士２名、地域ボランテイア６名、学校７名、行政(役場) １名
⑩ 必要経費（所要額、財源）	１８万円(防災教育チャレンジプラン)、自治会〇〇円、その他

防災教育チャレンジプラン

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 内閣府防災教育チャレンジプラン活動募集に応募（H23.12.16）	河合町役場、自主防災会と自治会の意志確認（防災活動の新たな展開を模索）	学校へ提案、意向打診（河合町役場、自主防災会）	学校へ取り組み内容の概要説明と検討依頼（河合町役場、自主防災会）	学校より取り組みの承諾	内閣府防災教育チャレンジプラン活動への応募		
② 内閣府防災教育チャレンジプラン取り組み　(第1回キックオフミーティング)	1月31日（月）16:00～17:30　(学校会議室)	打ち合わせメンバー ・教務主任 ・２丁目自治会 ・２丁目防災士 ・河合町役場	年間スケジュールの確認 ・学校、自治会のスケジュール	総合学習の具体化に当たっての制約条件の確認	総合学習成果発表日の決定 7月19日（火）　9：00～11：00と決定	次回ミーティング日の確認	
③ 第3小学校全校防災避難訓練及び防犯・防災学習への支援	2月23日（水） 防災講座 ・対象：3年、4年、5年、6年生 ・45分間授業 ・14時～16時	高塚台2丁目自治会所属の防災士4名　08：50～6年生　09：40～3年生　10：45～4年生　11：35～5年生	講座内容 ・災害についての一般知識 ・災害の種類 ・地震災害	パワーポイント・DVD・災害教本を活用			
④ ２０１０内閣府防災チャレンジプランワークショップ参加 高塚台２丁目自主防災会取り組み発表	2011，2，26　東京都防災センター	発表者　井坂オブザーバー　斧、高岡、山本					

防災教育チャレンジプラン

⑤	総合学習事前打合せ ①学習テーマ確認 ②学年担当スタッフの確保と協力依頼	3月4日（金） 学校会議室 16：00～17：30	学年、クラスごとのテーマ ①5年1組 防火対策とｸｲｽﾞ ②5年2組 家屋の耐震化と家具転倒防止対策	③6年1組 防犯・防災すごろくマップ ④6年2組 防犯・防災寸劇、人形劇		スタッフの確保と協力の依頼 ①高塚台二丁目自主防災会防災士　②河合町内防災士	③河合町女性消防隊 ④ＰＴＡ役員 ⑤いきいきサロンメンバー(社協ボランテイアー)	
⑥	総合学習事前打合せ （3／23）（4／7） 進行ｽｹｼﾞｭｰﾙの確認 ｸﾗｽ担当ｽﾀｯﾌの確保 資料ー①	3月23日（水） 「進行ｽｹｼﾞｭｰﾙ確認」 学校会議室 14:00～16:30	職員会議で担任への説明 （4／4予定）	担任とスタッフの顔合わせと打合せ （4月上旬全体会議で）	クラス担当スタッフ紹介(4月中旬) （各学年教室）	4月7日（木） 「クラス担当スタッフの確認」 （学校会議室） 14:00～16:30	①5年1組 女性消防隊・井坂 ②5年2組 山本・久保	③6年1組 高岡・丸山・北口 ④6年2組 新開・いきいきサロン
⑦	全体会議及びクラス別打合せ 4／11　16:00～18:00 学校図書室	全体会議 ・校長先生、教頭先生、各担任、スタッフ、河合町役場	内閣府防災チャレンジプラン取り組みの再確認 （校長先生、防災会会長より）	総合学習時間割の確認	クラス担任とスタッフの顔合わせと打合せ 進行ｽｹｼﾞｭｰﾙの確認 資料ー②			
⑧	全体学習スタート 4／18 五年生全員	全体学習（防災） 自主防災会井坂・災害発生からとの様に身を守るか(パワーポイント)	全体学習（防犯）　西和警察 藤川　　・犯罪者の心理 防犯の意味					
⑨	全体学習スタート 5／12 五、六年生全員	全体学習（防災） 自主防災会井坂・災害発生からとの様に身を守るか(パワーポイント)	全体学習（防犯）　西和警察 藤川　　・犯罪者の心理 防犯の意味					

防災教育チャレンジプラン

⑩	各学年、クラス別授業の実施							

活動指導案

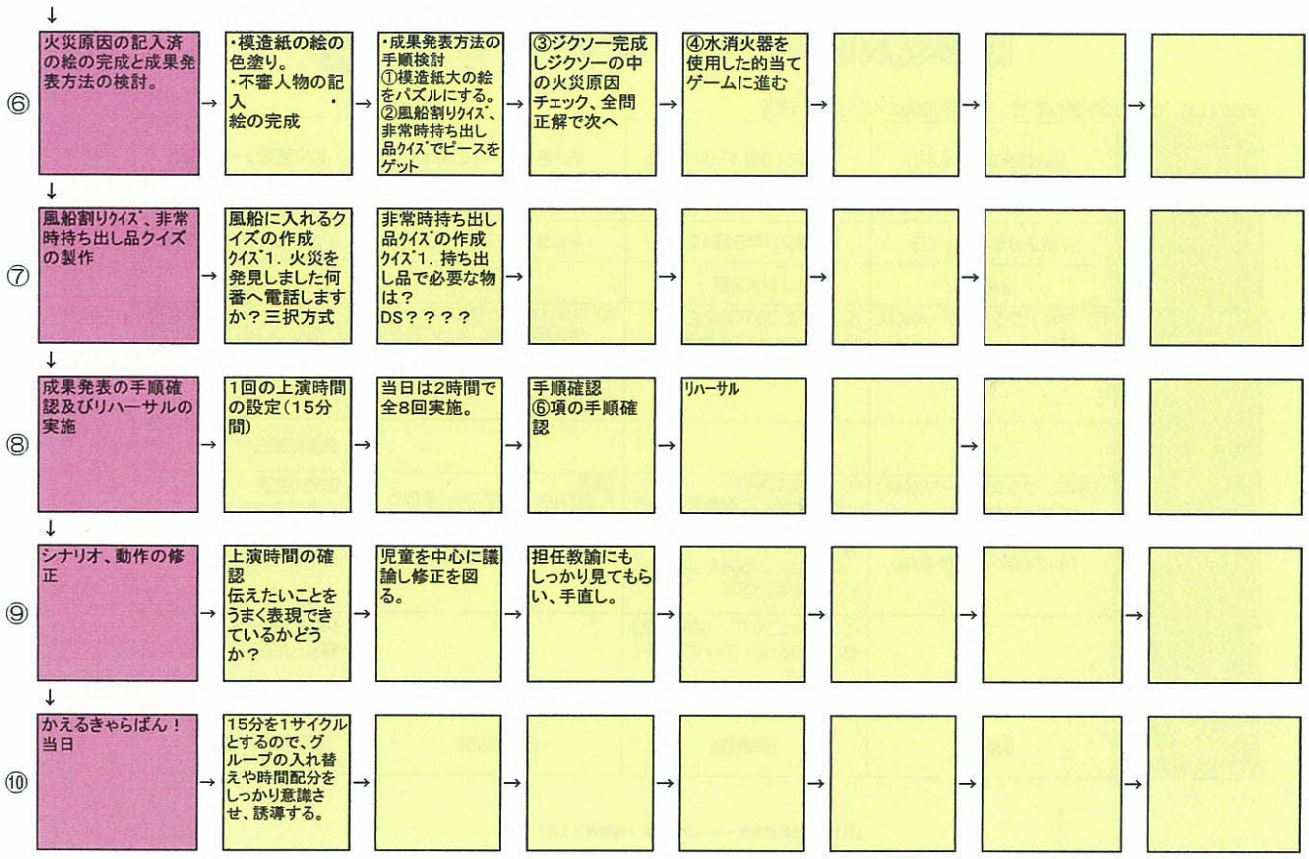
実践団体名　高塚台二丁目自治会　(学校を巻き込んだ、防災・防犯を一体化した地域の安全・安心向上作戦))

■基礎データ

① タイトル	**～かえるSOS大作戦！？～　～割って選んで火事探し！？～**(かえるきゃらばんin第3小学校)
② 活動の概要	総合学習時間を利用し、火災の原因を記入した家の絵を仕上げる、その絵で24ピースのパズルを製作する。家の色塗り、パズル製作を通して火災の原因、対策を学ぶ。、又、風船割ｸｲｽﾞ、災害時持ち出し品ｸｲｽﾞに答え、ピースをゲットし、ジクソーパネルを仕上げる。低学年にとっては遊び感覚で防火を学べる。
③ 目標・ねらい	ジクソーパズル、風船割りｸｲｽﾞ、災害時持ち出し品ｸｲｽﾞなどの製作過程及びジクソーパズルを使用した(遊び感覚を取り入れた)授業の中で火災の原因がわかり防火に役立てる。
④ 活動で上げることができる力・能力	防火に役立てる。
⑤ 対象者（受ける側）	ツール(ジクソーパズル等)製作者:5年1組児童 イベント参加者　:全児童,保護者、自治会員
⑥ 活動・作業形態	5名/グループで活動、災害全体についての勉強会、発表テーマの決定、シナリオ作成、パズル、ｸｲｽﾞの製作、リハーサル⇒本番。
⑦ 準備するもの（道具、材料等）	模造紙、絵の具、定色剤、カッターナイフ、ジクソーパズルのﾍﾞｰｽ材
⑧ 所要時間	16．5時間　(事前打ち合わせ90分/日×2日)＋(授業45分×2回/日×9日)
⑨ 必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	①担任教諭、河合町女性消防隊など常時3名で担当
⑩ 必要経費（所要額、財源）	絵の具類は他ｸﾗｽと兼用、模造紙、定色剤など、約10000円(防災教育CP)

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 事前打合せ＆顔合わせ	学校側担当の教務主任と顔合わせ＆基本方針打合せ(防災会、役場)	防災会＆役場職員＆ボランティアー(担当者)で大まかなテーマを絞る	学校＆防災会＆役場職員＆ボランティアー(担当者)の　顔合わせ＆説明会	クラス担任とボランテイアー(担当者)で発表テーマ、発表方法について協議			
↓							
② 防犯･防災全般についての学習	講師 防犯関係;西和警察署 防災関係;河合町防災士	5年1+2組全員で学習	DVD,パワーポイントなどを使用し学習。				
↓							
③ 発表ﾃｰﾏの絞込み 何の災害について発表するのか？	児童の意見聴取 どの災害に特化するか？	出るだけの意見を聞きだす。	災害のうち火災に特化する。				
↓							
④ 火災についての座学	女性消防隊による勉強会	･火災って物が燃えることだよね。燃えるためには3個の条件がいるんだよ。 ･火災の原因ってどんなことがあろう	･火災発生件数のうち一番多い原因はどれかな？	宿題 ･お家の中、廻りで火災の原因となるもの ･火災を起こさないために気をつけていること			
↓							
⑤ 宿題のまとめ	クラスを5班に分ける	･班別に宿題のまとめを表にまとめる	事務局 火災原因を模造紙(一般住居図)に落とし込み				



■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

家の断面図に描く(色塗り)ことで漠然としていた火災原因をはっきりとイメージできる。また、はっきりイメージできることにより児童ができる対応も進めやすい。

②その他の評価

宿題を通じてお父さんや、お母さんの防災(火災)に対しての意識高揚に繋がる。

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

とにかく、児童の意見をどんどん出させる！
それらをうまく取り上げ、まとめ、形にすることがポイント。
風船などの小道具を使用することで低学年も興味を持ち食いつきやすく、絵を用いることで更に理解を助ける。

②参考資料等

防犯ハンドブック(奈良県)
防災キッズドリル東京出版(提供：河合町)

防災教育チャレンジプラン

実践の詳細【総合的な学習の時間】　※学習時間は45分×2を基準

取り組み項目	防火啓発ツールの製作 （学年･クラス別テーマの検討）	防火啓発ツールの製作 （防犯・防災の総合学習）	防火啓発ツールの製作 （宿　題）	防火啓発ツールの製作 （宿題の発表、成果発表方法の検討･決定）
実　施　日	平成２３年4月１１日	平成２３年5月１２日	平成２３年5月１９日	平成２３年5月２６日
所要時間	2時間	４５分×2回		４５分×2回
達成事項	①　学年・クラス別テーマの決定 ②　成果発表方法の決定	①　防犯についての総合学習 ②　防災についての総合学習	①　火災の原因となるもの、火災を起こさないために気をつけることへの気づき。 ②　家族で話し合うことの習慣化	①クラス児童、保護者が火災の原因、気をつけなければいけないことへの気づき、
成　果　物				①　調査結果表
進　め　方	①学年、クラス別テーマの検討（担任とスタッフ） ③　成果発表方法の検討（全校生徒への発表･説明）	①　防犯について ・西和警察による講演「犯罪者の心理、防犯の意味」 ②　防災について ・防災士による講演「災害からいかに身を守るか」	宿題 ①家の中、周りで火災の原因となるもの ②火災起こさないため気をつけていること　の調査	①　宿題の発表 ②　火災に関するDVD ③　燃焼の3要素の説明 ④　成果発表方法の検討
ツ　ー　ル		①　防犯について　（西和警察） ②　防災について（パワーポイント）		①　火災に関するDVD ②　資料（燃焼の３要素）
場　所	図書室	視聴覚室	各人の家庭	五年生１組教室

防災教育チャレンジプラン

実践の詳細【総合的な学習の時間】　※学習時間は45分×2を基準

取り組み項目	防火啓発ツールの製作 （宿題のまとめ）	防火啓発ツールの製作	防火啓発ツールの製作 （火災原因を絵で表現）	防火啓発ツールの製作 （火災原因を絵で表現）
実　施　日	平成２３年6月2日	平成２３年６月	平成２３年6月9日	平成２３年6月１６日
所要時間	４５分×2回		４５分×2回	４５分×2回
達成事項	①クラス全員が火災の原因、気をつけなければいけないことへの気づき、認識		①火災の原因を記入した絵の色塗り	①火災の原因を記入した絵の色塗り
成　果　物	①まとめの表の作成		①　色塗りされた住居断面図（製作途中）	②　①色塗りされた住居断面図（製作途中）
進　め　方	①　クラスを5班にわける ②　班別に宿題を表にまとめる	①　一般住居断面図（絵）の作成	②　前回のまとめを絵で表現する。 ②　絵の色塗り。	①絵の色塗り。
ツ　ー　ル			①　一般住居断面図 ②　絵の具、筆	①　一般住居断面図 ②　絵の具、筆
場　所	５年１組教室	事務局（町役場）で準備	図工室	図工室

2011年度防災教育チャレンジプラン（高塚台２丁目）

防災教育チャレンジプラン

実践の詳細【総合的な学習の時間】　※学習時間は45分×2を基準

取り組み項目	防火啓発ツールの製作 （ジクソーパズルの完成）	防火啓発ツールの製作 （クイズの製作）	防火啓発ツールの製作 （クイズの製作）	防火啓発ツールの製作 （成果物修正） （発表リハーサル）
実施日	平成23年6月23日	平成23年6月30日	平成23年7月7日	平成23年7月14日
所要時間	45分×2回	45分×2回	45分×2回	45分×2回
達成事項	① 火災の原因を記入した絵の色塗り完成 ② ジクソーパズルの完成	① 風船クイズ（製作中） ② 持ち出し品クイズ(製作中)	①風船クイズ（完成） ②持ち出し品クイズ（完成）	① 火災の原因と対策を理解する。 ② 製作ツールを使用し、下級生に説明する。
成果物	①パズル（24ピース）		① 風船クイズ(消防関連一般) ② 災害時持ち出し品クイズ	
進め方	① 絵の色塗りの完成 ② ジクソーパズルの製作 完成した絵のカット（24ピース）。	① クイズの製作 ・ 風船の中に入れるクイズの製作 ・ 災害時持ち出し品クイズの製作	① クイズの製作 ・同左 ・同左	① 風船クイズ、持ち出し品クイズ正解・・ピースゲット ② ピースでパズル完成 ③ 完成パズルで火災の原因確認
ツール	①カッターナイフ	① 風船 ② クイズ記入用紙	③ 一般住居断面図 ④ 絵の具、筆	① 風船クイズ、持ち出し品クイズ ② ジクソーパズル。
場所	図工室	図工室	図工室	図工室

防災教育チャレンジプラン

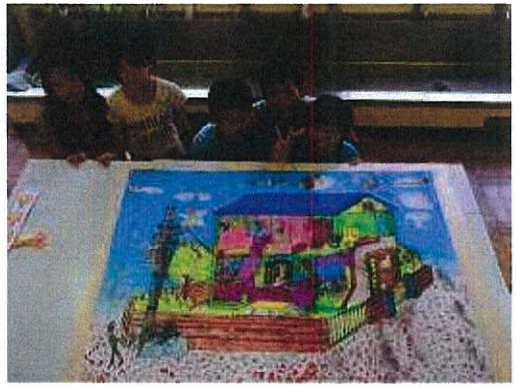
実践の詳細【総合的な学習の時間】　※学習時間は45分×2を基準

取り組み項目	**かえるきゃらばん！** 当日			
実施日	平成23年7月19日			
所要時間	2時間			
達成事項	③ 火災の原因を記入した絵の色塗り完成 ④ ジクソーパズルの完成			
成果物	①パズル（24ピース）			
進め方	③ 絵の色塗りの完成 ④ ジクソーパズルの製作 完成した絵のカット（24ピース）。	・		
ツール	①カッターナイフ			
場所	体育館			

2011年度防災教育チャレンジプラン（高塚台2丁目）

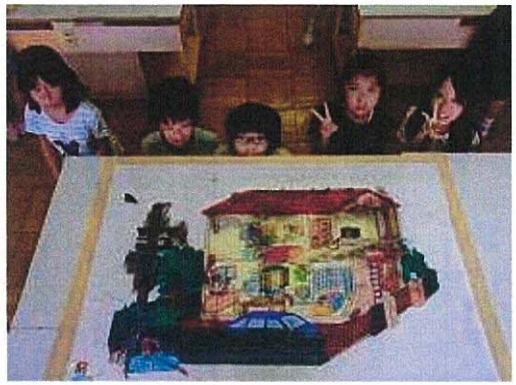






自宅の防火を学びながら色塗りなどを仕上げた防火パズル。パズル完成後は火のキャラシートを危険個所においてチェック。





自宅の防火を学びながら色塗りなどを仕上げた防火パズル。パズル完成後は火のキャラシートを危険個所においてチェック。



非常持出品クイズの短冊

活動マニュアル

実践団体名　高塚台二丁目自治会　（学校を巻き込んだ、防災・防犯を一体化した地域の安全・安心向上作戦））

■基礎データ

① タイトル	模型家屋と手作り家具で地震対策　**～ゆれて　たおれて　さぁ大変！～**（かえるきゃらばんｉｎ第３小学校）
② 活動の概要	総合学習時間を活用し、モデルハウスで家屋の耐震構造を学び、手作り家具で転倒のメカニズムを体験し、転倒防止策を楽しみながら考え学ぶ。
③ 目標・ねらい	地域（自治会）、学校（児童・先生）、行政（役場）が輪になって「家屋の耐震化、家具転倒防止策」を楽しみながら学習し”自助、共助の大切さを学び、減災に役立てると共に、その成果を児童、保護者、地域住民へ拡げ啓蒙を図る
④ 活動で上げることができる力・能力	地震災害への関心、災害発生時の自己防衛、地震災害の減災意識と事前対策の効果を確認し、「自助・共助」の大切さを修得する
⑤ 対象者（受ける側）	ツール作成者：５年２組（２２名）　／　イベント参加者：学校全児童
⑥ 活動・作業形態	一学期（４～７月）の「総合学習時間」を活用し、２２名を４チームで、各ツールを分担製作、発表シナリオの作成、実験リハーサル→発表本番
⑦ 準備するもの（道具、材料等）	パソコン、印刷器、家屋模型（１．８m×１．８m×１．５m・９０mm×９０mm柱）と振動コロ、家具模型（本棚・食器棚・タンス・ベッド・食卓用の角材と合板・ボード及び大工道具一式、ボンド、釘等）
⑧ 所要時間	正規授業時間　：　約２２時限（４５分×２２回　＝９９０分）、打合せ及び補助、事前準備作業時間（主としてボランティア）　：　２８時間
⑨ 必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	クラス担任教諭　・　地域ボランテイア(2名)～主として５年２組専任担当　・　応援ボランテイア(3名）～応援担当

防災教育チャレンジプラン

⑩ 必要経費（所要額、財源）	材料費約３万円（内閣府防災教育チャレンジプラン）

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① **事前打合せ・顔合わせ** 進行ｽｹｼﾞｭｰﾙの確認	学校側担当の教務主任と顔合わせ及び基本方針打合せ	職員会議で教頭先生より担任への説明	学校＆防災会＆ボランテイア＆役場　顔合わせ＆説明会	担任とスタッフの顔合わせと打合せ 進行スケジュールの確認			
② **事前全体学習** 防犯・防災についての学習	全体学習（防災）・地域の防災士　災害からどの様に　身を守るか(パワーポイント)	全体学習（防犯）・西和警察　防犯担当 犯罪者の心理 防犯の意味	**講座内容** 災害（防犯・防災）についての一般知識 災害の種類 地震災害	パワーポイント・DVD・災害教本を活用		**宿題(5年2組)** 各自の家庭の家具と配置図作成	**家具調査表の集約** 製作家具の決定 ①ベッド ②本棚、ﾃｰﾌﾞﾙ ③タンス ④食器棚
③ **総合学習** ○学習の目的と内容 ○クラス班分け　４班　○班別担当割り当て　○班別討論	○学習の目的 ・身の回りで大きな災害が起きている　どうしたら自分達の身を守れるかその方法を考え、体	○学習の内容 ・地震が来てもお家は大丈夫？ ・家屋の耐震について実験 ・家具の転倒対策について	○クラス班分け ①班 ｱﾝﾊﾟﾝﾏﾝﾁｰﾑ ②班 ﾁｰﾑｽﾏｲﾙ ③班 ﾀｰﾐﾈｰﾀｰﾁｰﾑ ④班 たいやき	○班別担当割当 ①班 模型家屋組立て、ベッド製作 ②班 本棚組立 ③班 タンス組立 ④	○班別議論 ・班毎に担当した内容の理解をする ・班毎に制作の進め方をまとめる		

防災教育チャレンジプラン

④	総合学習 ○家屋の耐震構造の研究 ○家具の図面作成 ○家具の材料準備	→ ①班 ｱﾝﾊﾞﾝﾏﾝﾁｰﾑ ・模型家屋を組み立てる ・耐震構造を理解する ・ベッドの制作	→ ②班 ﾁｰﾑｽﾏｲﾙ ・本棚の制作 ・テーブルの制作　・図面と材料の確認	→ ③班 ﾀｰﾐﾈｰﾀｰﾁｰﾑ ・タンスの制作 ・　図面と材料の確認	→ ④班 たいやき組 ・食器棚制作 ・図面と材料の確認	→	→	→
⑤	総合学習 ○家屋の揺れ方（振動）や揺れる程度検討 ○家具の組立・給付け	→ ①ｱﾝﾊﾞﾝﾏﾝﾁｰﾑ ・家屋を揺らす（地震）方法を検討 ・耐震化の方法を理解する（柱の臍、梁、筋交いの効果）	→ ②ﾁｰﾑｽﾏｲﾙ ・本棚とテーブル組立と絵付け ・転倒のメカニズムの実験 ・重心位置による倒れ方の変化	→ ③ﾀｰﾐﾈｰﾀｰﾁｰﾑ ・タンスの組立と絵付け ・転倒防止器具の検討（L型固定具等）	→ ④たいやき組 ・食器棚組立と扉の取り付け	→	→	→
⑥	総合学習 ○作業の進捗確認 ○制作完成に向け確認	→ ①班ｱﾝﾊﾞﾝﾏﾝﾁｰﾑ ・耐震化の実験と確認 ・臍や筋交いの役割を理解する	→ ②班ﾁｰﾑｽﾏｲﾙ ・本棚を使って重心位置と転倒の関係を実験を通じて理解する ・低重心、高重心　時の転倒の差	→ ③班ﾀｰﾐﾈｰﾀｰﾁｰﾑ ・タンスの完成 ・固定金具の取付	→ ④班たいやき組 ・食器棚の固定と扉のストッパーの関係 ・食器類の飛び出しの実験	→	→	→
⑦	総合学習 ○復習（目的の再確認） 教材「家具の転倒を防止するには」 ○発表用のシナリオ作成	→ ①ｱﾝﾊﾞﾝﾏﾝﾁｰﾑ 前回の体験で得た耐震内容を箇条書きでまとめシナリオ作り	→ ②ﾁｰﾑｽﾏｲﾙ 振動による家具の移動や転倒の仕組みについて箇条書きでまとめシナリオ作り	→ ③ﾀｰﾐﾈｰﾀｰﾁｰﾑ 家具類の移動や転倒を防ぐための工夫を箇条書きでまとめシナリオ作り	→ ④たいやき組 揺れや転倒によって棚の中の食器の飛び出し落下防止策を箇条書きでまとめシナリオ作り	→	→	→

防災教育チャレンジプラン

⑧	総合学習 発表会に向けたシナリオ作りと、それをもとにクラスとしての発表の仕方を考えてまとめる	→ 各班からのまとめを１３分程度で発表出来るようシナリオを作る 担任先生フォロー	→	→	→	→	→	→
⑨	総合学習 学習内容を再度確認し、発表に向けてリハーサル	→ ・全員で模型家屋の耐震構造を体験、理解し、発表手順を確認する ・筋交いの効果を知らせる	→ ・家具の転倒の仕組みを解りやすい方法で表現する ・　転倒の傾斜が解る物差しを作る	→ 発表の為の班組を作る ①～④チームから各一名づつ出て①～④班を編制する	→ ・発表班毎に発表練習と修正 ・発表当日の担当時間帯を割当	→	→	→
⑩	総合学習 発表に向けてリハーサル	→ 模型家屋を図工室に移動（分解移動後再組立）	→ 各家具類の配置及び固定具の設置	→ 発表班毎に発表練習と修正	→	→	→	→
⑪	総合学習発表会	→ 体育館集合 ・５～６年生発表担当場所に移動　・１～４年生発表会場へ見学、体験開始	→ 発表 ・図工室にて成果発表（４班編制にて交代で発表） ・発表班以外は他の発表会場で	→	→	→	→	→

■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

地震の怖さについて理解が深まった。２月２２日にはＮＺでの大地震発生、更には３月１１日の東日本大震災が起こり、地震防災への関心と意識がたかまり、総合学習での体験が単なる机上の学習で無い実感が児童達に生まれた。
スタッフ（ボランテイア）と担任教諭とのコミニケーションが深まり、児童や保護者との絆が強くなった。これは校内や校外での挨拶「おはよう、こんにちは！」にも現れてきた。

②その他の評価

発表会に参加した地域の人達も成果発表を体感され、防災への関心が高まった。自治会役員内でも防災への意識（防災対策）が高まり、参画意欲が高まった。（地域合同防災避難訓練の実施など）。また、総合学習で使用した学習資料や家屋模型は、地域の老人会での防災の話「人と命の絆」の講話に、又、家屋模型は本校以外の町内小学校での耐震講座、家具転倒防止講座に活用でき防災意識の啓蒙に役立った。

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

1．事前の打合せ等で、目的・内容を明確にし、関係者で共有し理解を深めておく。
2．スタッフ間あるいは担任教師との意思疎通をはかり、学習進行に合わせた事前準備(修正も含む)を十分に行う。（1週ごとに授業有）

②参考資料等

①防災キッズドリル東京出版(河合町提供)実施　②防災48　総務省消防庁）

防災教育チャレンジプラン

実践の詳細【総合学習の時間】　※学習時間は45分×2

タイトル	総合学習準備 1．家屋模型の図面確認	総合学習スタート 1.防犯･防災全般の授業	総合学習 1 学習の目的と内容について 2 クラスの班分け	総合学習 1 班別役割分担 2 班別議論(製作物の内容、進め方)
実施日	5月9日(月)	5月12日(木)	5月26日	5月26日
所要時間	45分×2	45分×2	45分×2	45分×2
達成事項		1 防犯･防災全般の理解	1.地震から身を守る方法	1．役割分担の決定
成果物	1 家屋模型(モデルハウス)図面			
進め方	1．家屋模型(モデルハウス)図面完成 2．図面の確認	1．防災の授業 自主防災会 2．防犯の授業 西和警察署)	1 地震に特化し地震から身を守るためにどうすべきか? 2 家屋の耐震化、家具転倒防止面から考える。 3 クラスを4班に分け、活動	1 班ごとの担当区分を決める。 2班ごとの担当役割の理解 3製作物の決定と進め方の議論。
ツール		1．パワーポイント 2．DVD		
場所	河合町役場	視聴覚室	5年2組教室	5年2組教室

2011 年度防災教育チャレンジプラン（高塚台２丁目）

防災教育チャレンジプラン

実践の詳細【総合学習の時間】　※学習時間は45分×2

タイトル	1．1班家屋模型組み立て方法の学習、家屋構造の理解 2．2班～3班:家具図面の作成･資材の寸法切り	1．1班家屋模型組み立て方法の学習。家屋構造の理解 2．2班～3班:家具材料の･寸法切り、組み立て	1．1班：2～4班の応援 2．2～4班家具組み立て及び給付け作業	1．各班最終仕上げ 2．成果発表会のシナリオの作成に着手
実施日	6月2日(木)	6月9日(木)	6月16日(木)	6月23日(木)
所要時間	45分×2	45分×2	45分×2	45分×2
達成事項	1．模型家屋組み立て方法の習得と構造の理解(地震に強い家は)	1.模型家屋組み立て方法の習得と構造の理解(地震に強い家とは?) 2.家具の組み立て	1.家具の組み立て、給付け作業	1.家具製作完了 2.シナリオの打ち合わせ
成果物	1.家屋模型(モデルハウス)			1.家具類(ベッド、本棚、ミズヤ、箪笥、食器棚
進め方	1．図面を確認しながら組み立てる。臍や筋交いの役割を理解しながら、地震に強い家を学ぶ 2．家具図面を見ながら材料の寸法切りを行う。	1.図面を確認しながら組み立てる。臍や筋交いの役割を理解しながら、地震に強い家を学ぶ 2.家具図面を見ながら家具の組み立て	1．家具組み立て及び給付け作業	1．家具の給付け完了、金具取り付け完了 2．成果発表用シナリを作り
ツール	1.大工道具（のこぎり、ハンマー、釘、ボンド、キリ、）	1.大工道具（のこぎり、ハンマー、釘、ボンド、キリ、）	1.大工道具（のこぎり、ハンマー、釘、ボンド、キリ、） 2.絵の具	1.大工道具（のこぎり、ハンマー、釘、ボンド、キリ、） 2.絵の具
場所	図工室	図工室	図工室	図工室

2011 年度防災教育チャレンジプラン（高塚台２丁目）

防災教育チャレンジプラン

実践の詳細【総合学習の時間】　※学習時間は45分×2

タイトル	1.成果発表会のリハーサル 2発表会の役割分担の決定	1. 家屋耐震化のリハーサル 2. 家具転倒防止リハーサル	かえるきゃらばん！ 当日	
実施日	7月7日(木)	7月14日(木)	7月19日(火)	
所要時間	45分×2	45分×2	2時間	
達成事項			低学年、保護者、地域の方へのわかりやすい説明	
成果物		1.成果発表用シナリオ		
進め方	1. シナリオを公開し、みんなで意見を出し合い修正、変更を加える。 2. シナリオに沿った役割の分担	1.修正したシナリオに沿ってリハーサル	1. 大きな声でゆっくりと喋る。	
ツール			1. 防災関連パネル 2. コーナー案内板	
場所	図工室	図工室	体育館	

2011年度防災教育チャレンジプラン（高塚台2丁目）

		
耐震実験モデルハウス（本体町役場提供） 実寸の 1/2 スケールで実際の材木使用	本棚制作	テーブル制作
		
ベッド制作	整理箪笥製作	食器棚制作

活動ﾏﾆｭｱﾙ

実践団体名：高塚台２丁目自治会(学校を巻き込んだ、防災・防犯を一体化した地域の安全・安心向上作戦)

■基礎データ

①	タイトル	家屋の耐震化、家具転倒防止講習会及びモデル事業の実施
②	活動の概要	体験型講習会(見て！、触れて！、体験して！）を開催する事により耐震、転倒防止の必要性と実務を理解してもらう
③	目標・ねらい	自宅の耐震化＆身近にあるものを利用し安価な家具転倒防止対策を広める。
④	活動で上げることができる力・能力	実務に関連する工具類、必要資機材の取り扱い及び実践力
⑤	対象者（受ける側）	地域の住民
⑥	活動・作業形態	体験時、参加者を6人～１０人位のｸﾞﾙｰﾌﾟわけを行う。各グループには防災士等のサポーターを配置する。
⑦	準備するもの（道具、材料等）	ﾓﾃﾞﾙﾊｳｽ(1/2縮尺の家屋模型)，電動ドリル（インパクトドライバー）、各種ネジ類、固定金具、その他
⑧	所要時間	３時間
⑨	必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	ﾓﾃﾞﾙﾊｳｽ班出入、組み立て2～3名、講師1名、サポーター２～3名(班出入兼）、会場準備(班出入兼）１～２名
⑩	必要経費（所要額、財源）	講師派遣費用(奈良県負担)

防災教育チャレンジプラン

■活動の流れ

資料 ↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
①〇年間スケジュール調整	・自治会年間スケジュールとの調整	・屋外実施イベントを優先する。	・本イベントは屋内でも実施可能				
②〇派遣講師のスケジュール確認及び手続き	・派遣講師のスケジュール確認	・講師派遣手続き					
③〇地域住民及び関連機関への広報	・地域住民への広報 ・参加者の呼びかけ ・参加者の集計	・関連機関への連絡(河合町役場)、協力要請					
④〇講師との事前打ち合わせ	・対目スケジュール ・講習内容 ・準備品 ・担当役割 ・配布資料の部数						

防災教育チャレンジプラン

⑤	○準備(実施日前日)	・ﾓﾃﾞﾙﾊｳｽの半出入 ・ﾓﾃﾞﾙﾊｳｽの組み立て ・会場設営						
⑥	○準備(実施日当日)	・施工工具の陳列　・施工資機材の陳列 ・プロゼクター						
⑦	○実施日当日	・多くの人に体験してもらう工夫	①インパクトドライバーによるビス打ち ②ビニルシート貼り付けたガラスの破片飛散状況の確認	③固定金具の設置場所確認方法 ④その他	・アンケートの記入依頼と収集			
⑧	○実施日後日	・アンケートの集約						
⑨	○モデル事業の呼びかけ	・老人会、いきいきサロンなどを通じて呼びかける。	・独居老人宅,老・老夫婦宅などを優先して呼びかけ					

防災教育チャレンジプラン

■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

・初期は当年度の自治会委員の出席が中心であったが回を重ねるごとに一般住民の方が増加してきている

②その他の評価

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

・体験型(参加型)の講習会が好評である。初めて触ったインパクトドライバーにおっかなびっくり！　でもこれだったら私にも出来る！
・講習会実施後のフォローが必要

②参考資料等

防災教育チャレンジプラン

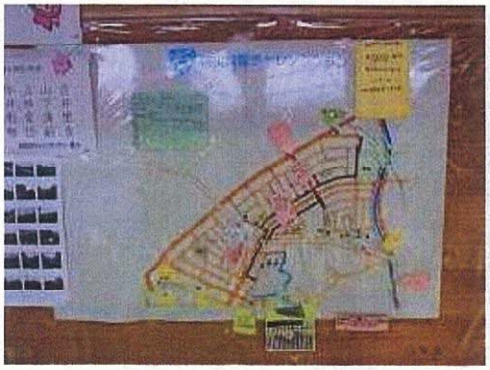
取り組み項目	1．学習事前打ち合わせ&テーマ及び担当者の選任	1.防犯・防災全般の学習	1まち歩き探検	1 防災・防犯マップ作り
実施日	4月7日(木)	4月18日(月)	5月16，23日	5月30日~6月27日 4日間
所要時間	午後2時~4時	45分×2	45分×2 午前8時50分~10時25分	45分×2
達成事項		1 防犯・防災全般の理解	1.校区内の防災、防犯上危険な場所、安心できる場所の確認と再発見	1.マップの完成
成果物				1.マップの完成
進め方	1．学年，ｸﾗｽ単位のﾃｰﾏの選定 2．ｸﾗｽ単位のﾃｰﾏの決定 3．クラスのグループ分け 4．防犯・防災についてのｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ&図上訓練(DIG)の説明	1．防犯関連 西和警察署員による講義 2．防災関連 防災士(地域)による講義	1 校長先生、教頭先生。担任教諭、地域防災士、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｰによる誘導 2 まち歩きワークシートに基づき探検 3 校区内エリアを2つに分けて探索 4．ワークシートの整理、まとめ 5．地域の方へのインタビュー	1.地図原図を基にビニールシートに転記作業 2.通学路、避難路等を指定色にて記入 3.調査項目(ﾜｰｸｼｰﾄ)、インタビュー内容をマップに記入
ツール		1．パワーポイント 2．DVD	1．ワークシート 2．地域地図	1.ビニールシート 2．マーカー 3.アンメルツ　その他
場所	第三小学校会議室	第三小学校視聴覚室	フィールドワーク	6年1組教室

2011年度防災教育チャレンジプラン（高塚台2丁目）

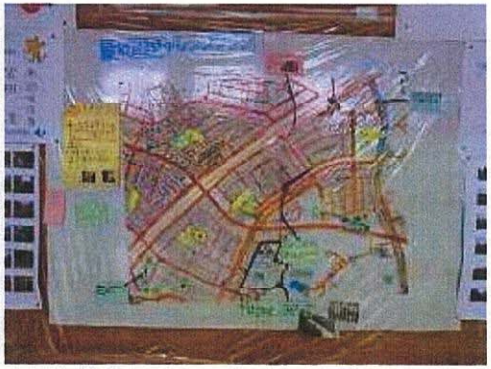
防災教育チャレンジプラン

取り組み項目	1．すごろく作り	リハーサルの実施	かわいっこ　かえるきゃらばん！当日
実施日	7月4日~7月18日 3日間	7月18日(月)	7月19日(火)
所要時間	45分×2	45分×2	午前8時40分~11時
達成事項	1．すごろくの完成（登下校ルートの反映）		1．一学期総合学習で学んだことを低学年児童に理解できるよう説明する。 2．校区内の環境を理解し、防災・防犯に役立てる 楽しみながら学ぶ
成果物	1.すごろく（16m×10m）		
進め方	1．すごろくの製作 2．目標工作物の製作・設置(駅、集会所、学校) 3．経路の表示 4．ルーレットの製作 5．36島の質問書の製作 6．運営手順の確認	1.1 回のゲーム設定時間(15 分間) 2.ｸﾞﾙｰﾌﾟの入れ替え時間を考慮	1．六年生児童(マップ、すごろく製作)が先導役を務める 2．1~4 年生の見学者は ｸﾞﾙｰﾌﾟ単位で六年生の誘導に従う 3．ルーレットの出目数を進み到達した島の質問に答える。答えが不明の場合、体育館壁面に張られた、写真&マップを参照に探す。 第三小学校到達でゴール
ツール	1.ブルーシート（5.4m×3.6m 9枚）1枚に仕上げる。（10m×16m） 2.接着ﾃｰﾌﾟ　その他		1.マップ、探検時のスナップ写真 (体育館壁面に貼り付け)
場所	第三小学校体育館	第三小学校体育館	第三小学校体育館

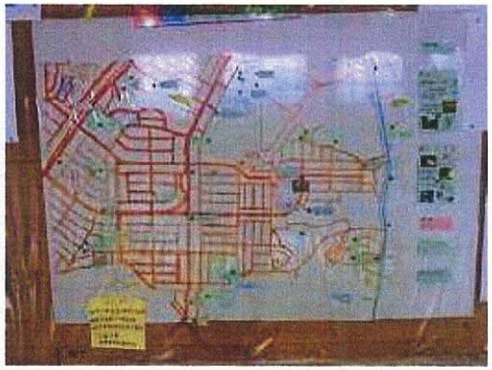
2011年度防災教育チャレンジプラン（高塚台2丁目）



校区防犯 DIG



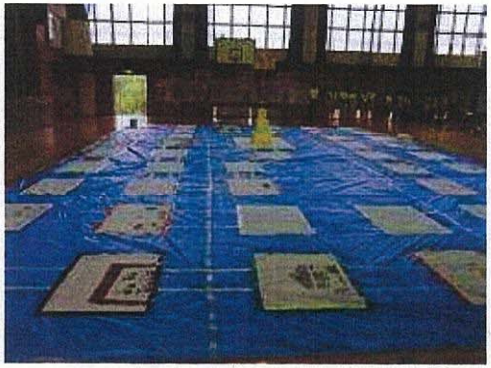
校区防災 DIG



校区防災 DIG



校区防犯 DIG



体育館半面のすごろく



模造紙１枚分のすごろくの１マス。全 42 コマ

活動ﾏﾆｭｱﾙ

実践団体名　高塚台２丁目自治会自主防災会　(学校を巻き込んだ、防災・防犯を一体化した地域の安全・安心向上作戦)

■基礎データ

①	タイトル	防災寸劇　**～地震に自信！？～**　(かえるきゃらばんin第３小学校)
②	活動の概要	小学校の総合的な学習の時間を利用し"地震から身を守る、助かるための行動"の寸劇を製作し、その製作過程、発表を通じて防災を楽しみながら学ぶ。
③	目標・ねらい	地震が来たら、あわてず自分を守り、助かる行動ができるようにする。
④	活動で上げることができる力・能力	地震から自分を守り、助かるための行動力を培う。
⑤	対象者（受ける側）	ツール作成者：６年２組男子 イベント参加者：全児童
⑥	活動・作業形態	６名/グループで活動、災害全体についての勉強会、テーマの決定、シナリオ作成、小道具製作、リハーサル⇒本番。
⑦	準備するもの（道具、材料等）	1．製作に必要な資機材：模造紙、鉛筆、色鉛筆、マーカーペン、絵具、筆、、セロテープ、ガムテープ、ダンボール箱など 2．学校から借りた小道具：ベッド、布団、枕、懐中電灯、漫画、部団旗、黄帽、ランドセル、教壇、机、椅子など
⑧	所要時間	2時限/日（４５分×2回）×１０日
⑨	必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	担任教諭、防災士など5名（町内にいる防災士仲間に声をかけ、参加してもらった。今回は女性防災士ばかりで対応）、町役場担当者
⑩	必要経費（所要額、財源）	約３０００円　マーカーなどについては学校や役場のものも利用。

防災教育チャレンジプラン

■活動の流れ　その１

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 事前打合せ&顔合わせ	学校側担当の教務主任と顔合わせ&基本方針打合せ	防災会リーダー&役場職員&担当者で大まかなテーマを絞る	学校&防災会&ボランティア&役場　顔合わせ&説明会	クラス担任と担当者でテーマと寸劇の進め方について協議			
② 防犯・防災全般についての学習	講師 防犯関係；西和警察署 防災関係；河合町防災士	6年1+2組全員で学習	DVD,パワーポイントなどを使用し学習。				
③ グループ分け	防犯、防災グループに分ける。	グループごとに防犯、防災それぞれの学習をする。 防犯パンフレットや防災キッズドリル利用。	グループ分け（6～7名の小グループ） 防犯2ｸﾞﾙｰﾌﾟ 防災2ｸﾞﾙｰﾌﾟ				
④ 寸劇題目(発表項目)の絞込み	児童の意見聴取 どの災害に特化するか？	出るだけの意見を聞きだす。	災害のうち地震に特化する。	地震に遭遇する場面の設定。	下記の３つの場面を設定 ①自宅で就寝中。②登校の途中で　③学校で授業中に		

防災教育チャレンジプラン

⑤	シナリオの作成	シナリオ作成	低学年を意識し、各場面で"何を"伝えたいのか"グループで事前に確認しておく	わかりやすい言葉で、簡潔に(あれもこれも言わない)				資料番号１２１．ｼﾅﾘｵ"自宅で就寝中"
⑥	配役の決定	適材適所に配置	児童で相談して決定する。 担任教諭と相談しながら配役を決めると良いかもしれない。					
⑦	背景の検討、背景に必要な小道具の調達、及び製作	小道具は学校にあるものの使用を優先する。	役場の協力もあったので、用意できるものは役場でも用意。					
⑧	リハーサルの実施	１回の上演時間の設定（１５分間）	当日は２時間で全８回（２つのバージョンを交代で）上演するので、段取りもする。					
⑨	シナリオ、動作の修正＆リハーサル	上演時間の確認伝えたいことをうまく表現できているかどうか？	児童を中心に議論し修正を図る。	リハーサル 担任教諭にもしっかり見てもらい、手直し。				

防災教育チャレンジプラン

⑩	当日	１５分を１サイクルとするので、グループの入れ替えや時間配分をしっかり意識させ、誘導する。						

■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

学校で取り組んだことのない内容だったので、子どもたちには目新しく、楽しく真面目に取り組むことができた。

②その他の評価

「自分たちが先生役」と意識させることで防災学習に対する子どもの意識や姿勢が大きくかわる。
低学年に伝えることを前提にわかりやすい内容とするための工夫を子どもたち自身が考えることで、自覚がでる。
低学年の児童も高学年から楽しみつつ教えてもらうことで、興味を持つ。

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

とにかく、児童の意見をどんどん出させる！
それらをうまく取り上げ、まとめ、形にすることがポイント。

担任教諭との打合せをこまめにしなかったので、進行が遅れた感あり。こまめに担任と相談する方が時間がかからず、うまくいくかも。

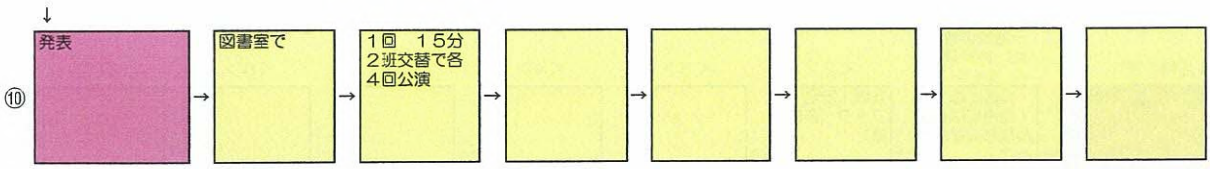
②参考資料等

防犯ハンドブック（奈良県）
防災キッズドリル東京出版（提供：河合町）

■活動の流れ　その2

	↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
①	災害について学習	・災害とは？ ・災害にはどんなものがあるか？	安心・安全ブック（奈良県）					
②	地震に特化してくわしく防災学習	地震が起きた時に命を守るための行動を考える	大地震に備えて（財）日本防災　危機管理促進協会	元気キッズの防災ドリル				
③	どういう形で発表を　するか	背景を紙芝居にして人形が語る	非常持ち出し品の場面での表現方法は観客に問いかける					
④	場面設定 場面毎の担当を決める　　各2人	表紙 エレベーター 通学途中学校 家で起きてる時 寝てる時	学校でのトイレと体育館はやめて教室場面のみに					
⑤	担当者は簡単なストーリー作り	ナレーターは始めの挨拶と主旨説明の表紙作り						
⑥	ストーリーに沿って詳しくシナリオを作成	各所にナレーターが入るため場面の担当と調整						
⑦	背景画作成 人形作成	子どもの自主性にまかせたため背景の大きさが統一できなかった。（個性はあった）						
⑧	人形劇練習 リハーサル	声だけのナレーターの立ち位置確認	話をしている方の人形とわかるように動かす	大きな声で!!				
⑨	めくり（演目） めくり台プラカード	演じている場面がよくわかるようにめくりを置く	プラカードはお・は・し・も・の意味説明するため使用	「おかしも」でよく啓発されているが、「かけない」は現代の子どもは使わないので「はしらない」に変更した				

防災教育チャレンジプラン



■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

②その他の評価

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

子どもの自主性にまかせたが、個人の持つ能力は素晴しかったが、皆で助け合い、協力し合おうというところが欠けているのがみられ、我々がどこまで言っていいのかわからず困りました。（良く言えば、おせっかいをしないということかも）

②参考資料等

大地震に備えて（財）日本防災危機管理促進協会　　安心・安全ブック（奈良県）　　元気キッズの防災ドリル

防災教育チャレンジプラン

グループA

取り組み項目	防災・防犯についての全体学習	地震についての授業	被災場面(寸劇)の設定	おおまかなシオの作成
実施日	4月18日	5月16日	5月23日	5月30日
所要時間	45分×2	45分X2	45分X2	45分X2
達成事項	防災・防犯についてチャレンジプランについて	地震に特化して勉強し、成果発表の方法等についてまとめる	低学年に、これだけは教えたいこと、知って欲しいことを表現できる場面の設定。	大まかなｼﾅﾘｵの作製 ・場面ごとの伝えたいことの確認
成果物				大まかなｼﾅﾘｵ
進め方	1．防犯関係 西和警察署員による講義 2．防災関係 防災士による講義	1．スタッフ、児童の自己紹介 2．防災教育チャレンジプランの目的等についての説明 3．クラスのグループ分け（防犯・防災各１２人） 4．グループの細分化防災担当を6名/Gの2ｸﾞﾙｰﾌﾟに分ける 5．この2ｸﾞﾙｰﾌﾟで寸劇と人形劇を作成して低学年への説明ツールとする。	1.寸劇3場面の設定 ・自宅で就寝中 ・部団で登校中 ・教室で授業中 2．大まかなストーリー作り	場面ごとの伝えたいこと ①自宅で就寝中 ・布団を頭にかぶり様子をみる ・ドアを開ける(脱出口)の確保 ②部団登校中 ・ランドセルを頭に　塀、電柱から離れて様子をみる ③教室で授業中 ・机の下に隠れて様子をみる ・教室のドアを開ける。
ツール			台本用用紙	台本用用紙
場所	三小視聴覚教室	6年2組教室	6年2組教室	6年2組教室

2011 年度防災教育チャレンジプラン（高塚台２丁目）

防災教育チャレンジプラン

グループA

取り組み項目	シナリオ作成	シナリオ作成	寸劇背景作成	寸劇背景作成
実施日	6月6日		6月20日	6月27日
所要時間	45分X2		45分X2	45×2
達成事項	シナリオの作成 配役の決定 小道具の設定	シナリオの作成 配役の決定 小道具の設定	背景図作成	背景図作成
成果物	シナリオ	シナリオ		
進め方	配役と小道具を考える ①自宅で就寝中 配役：子供1人、母の声役、ﾅﾚｰﾀｰ、解説者、擬音を出す人 小道具：子ども部屋の椅子、ﾏﾝｶﾞ本、ﾍﾞｯﾄﾞ、布団、ｼｰﾂ、枕、懐中電灯) ②部団登校中 部団長1人、児童3人、ﾅﾚｰﾀｰ	③教室で授業中 配役 先生役1人、児童　3人、擬音を出す人ナレーター、解説者 小道具 教卓、机と椅子、筆箱、テスト用紙、先生のメガネ	1．背景下絵製作、色塗り	1．背景製作、色塗り
ツール	擬音を出す人 （部団旗、ランドセル）		1．絵の具、ダンボール紙、ハサミ、マジック	1．絵の具、ダンボール紙、ハサミ、マジック
場所	三小視聴覚教室	6年2組教室	6年2組教室	6年2組教室

2011 年度防災教育チャレンジプラン（高塚台２丁目）

防災教育チャレンジプラン

グループA

取り組み項目	背景画完成と寸劇手順打ち合わせ	寸劇手順詳細打合せ	リハーサル	準備(設営)
実施日	7月4日	7月5日	7月11日	7月15日
所要時間	45分X2	45分X2	45分X2	45分X2
達成事項	背景画完成	成果発表会手順確認	リハーサルと小道具の確認	発表前の舞台設営
成果物	背景画	成果発表会手順書		
進め方	1．背景画色塗り 2．寸劇手順確認 ・あいさつ（全員） ・場面①、②、③の寸劇のあと災害時とるべき行動の再確認と説明 3.お、は、し、もの説明	1．発表場所・位置、発表サイクルと、時間割の確認	①自宅で就寝中 時計22時、本箱、ドア の絵、椅子とマンガ本、ベッド（布団、枕）、懐中電灯、靴 ②部団登校中 ブロック塀、電柱の絵、部団旗、黄帽、ランドセル ③教室で授業中 教壇、机、椅子、筆箱、 テスト用紙	1．舞台設営
ツール	1．絵の具、マジック		1．ベッド、セロテープ、ガムテープ、スクリーン2枚、布（茶、白）大2枚、めくり	
場所	6年2組教室	6年2組教室	図書室	図書室

2011年度防災教育チャレンジプラン（高塚台2丁目）

防災教育チャレンジプラン

グループA

取り組み項目	かえるきゃらばん！ 当日			
実施日	7月19日			
所要時間	2時間			
達成事項	寸劇の発表			
成果物				
進め方	1．2グループで8回公演 2．合間に他のグループの防犯・防災のブースを見る			
ツール	1．めくり台、めくり 2．プラカード ① 中就寝中 ② 登校中 ③ 授業 お、は、し、も			
場所	図書室			

2011年度防災教育チャレンジプラン（高塚台2丁目）

防災教育チャレンジプラン

グループB

取り組み項目	防災･防犯について	防災について	おおまかなストーリー作り	シナリオ作成
実　施　日	4月18日	5月16日	5月23日	5月30日
所要時間	45分X2	45分X2	45分X2	45分X2
達成事項	防災･防犯について チャレンジプランについて	自然災害の勉強 地震による災害から身を守るための表現方法を考える	各場面で、地震が起きた時、どうすれば自分の命を守れるか学習	シナリオ作成
成　果　物			場面毎のストーリー	シナリオ
進　め　方	井坂さん 警察署員による講演	・自己紹介 ・防災教育プランについて ・グループ分け(防災･防犯各12人) ・防災担当を、6名ずつ2つの班に分け人形劇と寸劇で表現する。 ・人形劇　背景を紙芝居形式にする。	場面を考える 場面担当決め 担当がストーリーを作る	6年生として低学年に、自分の命を守るためこれだけは教えたいこと、知って欲しいことを、わかりやすい表現方法で。
ツ　ー　ル		・寸劇　小道具と背景画を使う	台本用用紙	台本用用紙
場　所	三小視聴覚教室	6年2組教室	6年2組教室	6年2組教室

2011 年度防災教育チャレンジプラン（高塚台2丁目）

防災教育チャレンジプラン

グループB

取り組み項目	シナリオ作成	背景作成	打合せ	左記同じ
実　施　日	6月6日	6月20日	6月23日	6月27日
所要時間	45分X2	45分X2		45分X2
達成事項	シナリオ完成 人形作り	背景作成		左記同じ
成　果　物	・シナリオ ・人形			背景画
進　め　方	・シナリオ再確認、修正 ・ナレーター担当と場面担当の摺り合わせ	・背景の下絵 ・色塗り	担任の先生と打合せ 成果のまとめ 発表内容　方法	・色塗り ・背景画をダンボールに貼りつける
ツ　ー　ル	牛乳パック 割り箸 マジック はさみ	絵の具 マジック		絵の具 マジック のり セロテープ ガムテープ 磁石
場　所	6年2組教室	三小図工室	三小会議室	図工室

2011 年度防災教育チャレンジプラン（高塚台2丁目）

防災教育チャレンジプラン

グループB

取り組み項目	背景画完成	打合せ	リハーサル	準備(設営)
実施日	7月04日	7月05日	7月11日	7月15日
所要時間	45分X2		45分X2	
達成事項	背景画完成			発表前の設営
成果物	背景画・防災グッズカード			
進め方	小道具（防災グッズカード）の製作 ・寸劇の練習 ・ナレーターの立ち位置確認 ・発声を観客にむけて大きく	発表場所・位置 発表サイクルと時間割		発表台をならべる 背景を順にならべておく
ツール	絵の具 マジック 厚紙		プラカード	
場所	図工室・図書室	会議室・図書室	図書室	図書室

2011 年度防災教育チャレンジプラン（高塚台２丁目）

防災教育チャレンジプラン

グループB

取り組み項目	かえるきゃらばん！ 当日			
実施日	7月19日			
所要時間	２時間			
達成事項	人形劇の発表			
成果物				
進め方	※1グループ4回　公演 ※2グループで8回公演 ※合間に他のグループの防犯・防災のブースを見る			
ツール	めくり めくり台			
場所	図書室	会議室・図書室	図書室	図書室

2011 年度防災教育チャレンジプラン（高塚台２丁目）

6年2組　防災・防犯劇

① はじめのあいさつ

役名	セリフ と 状況や動き	
先生	皆さん、こんにちは！今日は地震が	一列に並ぶ
	おきた時どうしたらいいかを劇で	全員でこんにちは！
	伝えたいと思います。一生けん命	
	やるので皆さんしっかり見ておぼえて	
	ください	
司会(男の子)		木を持つ
(女の子)		プラカードを持つ。小道具 ①

② 防災教育チャレンジプラン

6年2組　防災・防犯劇

② 寝る場面

役名	セリフ と 状況や動き	付き添い
先生 ナレーション	今は夜の9時です。ゆうし君が	ゆうし君、マンガを読
	マンガを読んでいます。	んでいる。
母(女の子)	ゆうし!! もう9時だからマンガ	
	読んでないで早く寝なさい！	
ゆうし(男の子)	(いやいや) はーい	
母(女の子)	(ゆうしがトイレへ)	(ゆうしがトイレから出てきて)
ゆうし(男の子)	はーい！ わあ、何じかあ。	ふとんに入る
	グウ〜 グウ〜	グウ〜 (寝しんのまね)
ゆうし 寝た後	何かゆれてるなあー？	
	わあー 地しんだー	あれれ。ふとんをかぶる
	あっ！ そうだ ふとんをかぶるなよ	先生がきて 教わる
	(しばらくして) よし！ おそわった	
	そうだ！ ドアを開けるなよ	ドアを開ける
	よし 寝よう	寝る
先生 ナレーション	この時はもう地震(ナレーション)が	
	余震と言って このあとに地震が	次の揺れの準備
	くることがあるかもしれないので	安全をかくにん
	気をつけましょう	ランドセルを背おう
先生	寝てる時に地震がきたら	避難訓練もする
司会	ふとんやまくらで頭を守り地震	
	がおさまるまで待ちましょう。	
	もとに置いて下さい。	

防災教育チャレンジプラン　プラカード ②

③ 登校中の場面

役名	セリフ と 状況や動き	
語り（ナレーター）	今は朝の7時半です。みんなが	みんなが集合場所に
	集合場所にあつまってきています。	あつまっている。
子供（低学年）3人	ごめん、ごめん、遅くなって	（そうさつ走ってくる）
	今から歩こうぜー。	引っ越してきたばかりで友だちがいない。
子供 4人	遅いよー。何やら話そう話そう。	一緒に登校する友だちを待っている。
	（クラ～ クラ～	クラ～）
	見えたぞみんな！ あそこだ！	見えたぞー
	ランドセルを頭にのせて	ランドセルを頭にのせて
	へいからはなれてしまうなよ！	しゃがむ（低学年もしゃがむ）
	おそくなったのでさあ行くぞ！	
低学年女子	やっぱり登校は友達がいるよね。	
	さすがだよな。	
高学年（男女）	登校中に地震がおこったら	
	ランドセルなどで頭をまもって	
	姿勢を低くしよう。近くのへいや	
	電信柱からはなれましょう。	

④ 教室の場面

役名	セリフ と 状況や動き	
先生（ベテラン）	今、一時間目の授業をやってます。	先生と生徒
先生（若い女）	では今から漢字のテストをします	（テスト用紙を配る）
山本（男子）	えー、最悪	
佐々木（いじめっ子）	ふざけんなよ	
高橋（いじめっ子）	ほんまや ほんまや	
先生（若い女）	始めます。	
（高学年）3人で	グラグラ～	グラグラ～
先生	地しんだー	あわてる
先生	みんな！落ちついて！	
	地しんがおさまるまで机の下に	机の下にもぐる
	もぐってて下さーい！	
	（しばらくして）地しんがおさまりました。	
先生	先生 ドアを開けてきます！	席にもどる
男子	あっそうだ 先生に	ドアをあける
先生	教室にいるときに地震がおきたら	
	先生の話をしっかり聞いて机の下に	
	もぐりましょう。ヨーイ	
	「おはしも」の合言葉を	おはしも のポーズをする
	外に逃げましょう。	

6年2組　防災・防犯劇

⑤ 終わりのあいさつ

役名	セリフ と 状況や動き	
高江	皆さん！今日学んだことを	一列にならぶ
	覚えていますか？一度おさらい	
	してみましょう	
佐藤	寝ている時に地震がおきたら	
	けがをしないようにふとんをかぶり	
	地しんがおさまるまで様子を	
	みましょう。地しんがおさまったら	
	すぐにドアを開けましょう	
児玉	登校中に地しんがきたら	
	ランドセルを頭にかぶりブロック	
	べいなどからはなれましょう。	
永瀬	教室で地しんがおきたら、机の	
	下にもぐりましょう。地しんが	
	おさまったらドアをあけましょう。	
	火事などがおきたら（お）（か）（し）	カウントしながら
	の合言葉を守り、先生の言うことを聞きましょう。	（お）押さない（か）走らない（し）しゃべらない（も）戻らない
高江	ぼくたちの劇を思い出して	
	地しんがおきた時に活かしてほしい。	
	これで発表を終わります。以上！	
全員	ありがとうございました！	

防災教育チャレンジプラン

(1ページ)

学校帰りの出来事

↓

子ども2人の帰り道…

↓

バイバイして1人になる

↓

後ろからあやしい人が話しかける

↓

車に乗せようとする（あやしい人①が）

↓

見てる人にどうすればいい？聞く

↓　ダメって答える

②のあやしい人が①のあやしい人に注意

↓

②のあやしい人と子どもがいっしょに帰る

うらM

帰る道がちがう事に気付く

↓

もめる

↓

① のあやしい人が子どもをおさえる

↓

さけぶ

↓

パトロール中のおまわりさんくる

↓

たいほする

↓

お母さんかけつける

↓

お母さんといっしょに家にかえる

↓

めでたし

DAR457L

タイトル：

● 登場人物と配役

子　供（2人）	（とくはじ さき（おもわれる））	（なみえ ゆか　）
怪しい人（2人）	①うちやま りか	②きぬがさ まこ
おまわりさん	（とくとめ おやか）	
お母さん	（なみえ ゆか）	
ナレーター	さかもと あずさ	

●せりふ

ナレーター　学校の帰り道　ゆうかちゃんとさきちゃんが仲よく一緒に帰っています。

ゆうか、さき　アドリブ　ハイハイしから

①怪しい人(りか)　おっねえ、とてもおいしいお菓子屋さんがあるから一緒に買に行こう

さき　「うん一緒に行く」　車の方に行く。

質問「行ってもいいね」

「ダメ」

怪しいまこ②「どうしたの？」

さき「今、連れて行かれそうになってるの」

①怪しいりか　逃げる

②怪しいまこ「大丈夫だよ」「で

さき「こわかった」

まこ「またこんなことがあったらどめにから家まであんしてあげるよ

二人で帰る

ナレーター

二人はさきちゃんの家まで一緒に帰ることにしました。

でもさきちゃんは帰り道が違うことに気できました

●せりふ

さき	私の家あっちなんだけど、この道ちがう」
	、二人でもめる（あっち、こっちという）
さき	たすけてぇ〜
ふしぎな人のなかから	静かにして
おまわりさん	君たち何をしているんだ
あやや	③「おまわりさん、たすけて」
さき	この人達に連れて行かれそうになったの
おまわりさん	警察まで一緒に来るんだ！手伝わせて行く
おまわりさん	電話番号を聞く
さき	番号を言う
おまわりさん	もしもし、警察の者ですが、さきちゃんのお母さんですか
	今さきちゃんが知らない人に連れて行かれそうになったので
	事情をさき君に河合公園まで迎えに来てください
お母さん	大丈夫
さき	うんわかったよ
お母さん	これからは気をつけてね
二人で	おまわりさんありがとうございました
ナレーター	皆さんも知らない人についていかないようにしようね
	今から5カのおまわりさんのダンスをします
全員	ありがとうございました

切れ

6年2組防犯劇

1

役名		セリフ	
ナレーター（和佳子）		学校の帰り道、もえちゃんとゆうちゃんは仲良く帰っていました	
ゆう		今日の体育楽しかったね。	
もえ		うん。そうだねぇ〜	
ゆう		そういえば、お母さんと昨日、かわいい筆箱が売っているお店にいったんだよ	
もえ		へぇ〜。いいな。私もいってみたいな〜。	
ゆう		じゃあ、今からいっしょに行かない？	
もえ		あっごめん、今日ピアノがあるから行けないんだ。	
ゆう		あっそうか。じゃまたこんどいっしょに行こうね。	
もえ		うん。わかった。また明日。	
ゆう		バイバーイ。	
もえ		バイバーイ。	
ゆう		そうか〜。もえちゃんいけないんだぁ。じゃあ1人で行ってみようと。	
ナレーター		そこへあやしい人が近寄ってきました。	
犯人（和佳子）		う〜ん。ここにいきたいんだけどなあ〜。 ねぇ〜、ねぇ〜、ここのケーキ屋さんにいくにはどうしたらいいの？	
ゆう		ここの道を右に曲がって、次に左に行ってまっすぐ行って、信号を曲がったところだよ。	
犯人		えっ、なんて？ぜんぜんわからないよ。いっしょにきてよ。	
ゆう		いいよ。私、知ってるもん。ケーキ屋さん以外にも、本屋さんもおすし屋さんも、病院だって知っているよ。	
犯人		ああすごいね。でも今はケーキ屋だから	
ゆう		そうだった。こっちだよ。　あれ？いかのおすし？「知らない人についていかない」　そうか！　守らないと！ そこにかいてあるよ。	ポスターがはってある
犯人		えー、でも行こうよ	

役名	セリフ	
ゆう	ダメってかいてあるでしょ。	そこへ警官がとりかかる
犯人	あっしまった！	犯人逃げる
警官	どうしました？	
ゆう	知らない人につれていかれそうになったんです。	
警官	それは大変だ！犯人はどんなかっこうをしていましたか？帽子やメガネをかけていましたか？　服の色は何色？	
ゆう	えっと、どんなだったけ？	みんなに聞く
警官	分かりました。さっそくつかまえにいきます。　君のお母さんに迎えにきてもらおう。	
ゆう	はい！お願いします。	
ナレーター	ゆうちゃんはお母さんに迎えに来てもらいました。　一方犯人は警官が追いかけて来ないので安心していました。そこにもえちゃんが通りかかりました。	
もえ	はー、ゆうちゃんとお店にいきたかったなぁ。	
犯人	ねぇ、ねぇきみ～！　今からおかし買いに行くんだけど、一緒に行かない？	
もえ	わ～い。グミ買ってね。（ポスターを見る）そういえば、今、図工でポスターかいているんだ。「知らない人の車に乗らない」「大声をだす」？そういえばもえは今知らない人に車で・・・。　助けて～～～！	
犯人	うわぁ、逃げろ！	
通行人	もえちゃん、どうしたの？	
もえ	い、いまね、知らない人に車で連れて行かれそうになったの。	
通行人	じゃぁ、警察に電話するからちょっと待ってね。えっと、150番だったかな？（みんなに聞く）	
（みんな）	110番だよ。	
通行人	あっそうだったね。　もしもし警察ですか？	

役名	セリフ	
警官	（舞台の放送室の中で）はい、こちら警察です。どうかしましたか？	
通行人	私は井上ともうします。今女の子がさらわれそうになったんです。	
警官	もしや、犯人は○○色の服を着て○○をつけていませんでしたか？	
通行人	もえちゃん、犯人は○○色の服を着て○○をつけていた？	
もえ	うん。そんな感じだったよ。	
通行人	そうだったようですがなぜわかったんですか？とにかく犯人をつかまえて下さい。	
警官	わかりました。通報ありがとうございます。では犯人をつかまえてきます。	
通行人	もえちゃん、もう大丈夫だからね。	
もえ	あー、こわかった。	
ナレーター	一方、犯人は追いかけてこないことが分かり、安心して、通りをぶらぶら歩いていました	
犯人	やっぱり、私をつかまえることはできないよね。	
ナレーター	そこへ後ろからこっそり警官が近づいて来ていることを犯人は気づいていませんでした。	
警官	ちょっとあなた、たいほします。	
犯人	えっ、どうして….。ちょっとまって下さいよ。なんでたいほするのですか？	
警官	あなたの被害を受けた人々の証言で似顔絵ができました。これです。	
犯人	……	
警官	あなたにそっくりでしょう。	
犯人	どうもすみませんでした。	
警官	少し待て。被害者たちに本当に犯人か確かめるため電話します。	
犯人	わかりました	

4

6年2組防犯劇

役名	セリフ	
警官	井上さんですか？高塚台の学校の前で犯人をつかまえました。もえちゃんをつれてきてください	
通行人	（舞台の放送室の中で）わかりました。すぐいきます。	
警官	ゆうちゃんかな？	
ゆう	うん。そうだよ。	
警官	学校の前にきてくれる？	
ゆう	うん。わかった。	
警官	被害者たちが来るまでまちなさい。	
	（みんなが同時にドタバタと出てくる）	
もえ	あっ、犯人だ！	
ゆう	本当だ！つかまえたの？	
警官	はい。その様子では、この人が本当に犯人なんだね。	
通行人	ありがとうございました。	
警官	いえいえ、みなさんのご協力あったからとかまえることができました。ありがとうございました。	
もえ・ゆう	やっぱり「いかのおすし」大切だね。	

防災教育チャレンジ　防災寸劇（人形劇班シナリオ）

場面設定とおおまかなストーリー

エレベーター
①乗っている時止ったらすべてのボタンを押す
②最初に止った階で降りる

通学途中
①ブロック塀から離れる（倒れそうな物）
②かばんなどで頭を保護（身の安全を確保）
③周りに常に気をつけておく（電柱が倒れた時にあたらないように）

学校
教室
①机の下に入る
②揺れが収まったら運動場へ　お・は・し・も　お おさない
は はしらない
し しゃべらない
も もどらない

トイレ（安全）
ドアを少し開けて揺れが収まるのを待つ

体育館
窓ガラスが割れて落ちてくるのにあたらないように中心部に集まる

家
起きている時
①机やテーブルの下に入る。揺れが収まったら火を消しドアを開ける
②落下物から身を守るため座布団などで頭を保護する
③電灯や戸棚、タンスから離れる

寝ている時
①布団や枕で頭を保護する

台本

場面	登場人物	セリフ	演出
表紙	ナレーター　A	今日は集まっていただきありがとうございました。	前に出て言う
	ナレーター　B	まず、災害について考えてみましょう。	前に出て言う
		災害とは地震、津波、台風や大雨、洪水、火山の噴火などの変わった現象のことをいいます。	
	ナレーター　A	今回は地震が起きた時に、どうすればいいか人形劇にしたので、しっかり見てください。	前に出て言う
	ナレーター　B	それではよろしくお願いします。	前に出て言う
エレベーター	ナレーター　A	マンションのエレベーターの中でのことでした。	
	メタルキング	今日の学校の体育楽しみだね	
	キングスライム	そうだね	
	メタルキング キングスライム	うわー！！地震だー	背景を揺らす
	メタルキング	どうしよう！！	
	キングスライム	どうすればいいんだっけ？	
	キングスライム	あっ！思い出した。全てのボタンを押せばいいんだ。	
	メタルキング	そうしよう。はやく押して。	ボタンを押す
	メタルキング	最初に止った階で降りよう。	エレベータが止って開く
	メタルキング キングスライム	開いた！！	
	キングスライム	すぐに出よう。	無事助かる
	メタルキング	びっくりしたー。	
通学途中	ナレーター　A	そしてエレベーターを降りて道路を歩いていたときのことでした。	10秒くらいあけてから言う
			かくれて言う
	メタルキング キングスライム	また地震だー！！	
	メタルキング	倒れやすい物から離れよう。	離れる
		ブロック塀のことだよ。	
	キングスライム	ランドセルで頭を守ろう。	頭を守る
			地震がおさまる
	メタルキング	また地震がこないうちに早く学校へ行こう。	学校へ無事につく
	ナレーター　A	こうして二人は無事学校に行くことができました。	かくれて言う
学校	ナレーター　A	休み時間のことでした。	かくれて言う
	木の脇	あれ、なんか揺れてないか？	
	愛洲	わ～！地震だ！！	
	木の脇	机の下にかくれないと！！	机の音(ガタガタガタ)
	愛洲	あっ、ぼくのお気に入りの消しゴムが！！	
		取りに行かなきゃっ！	
	木の脇	ケガするからダメだよ！	
	愛洲	あっ、そうだった。取りに行くのはやめるよ。	
	木の脇	地震がおさまったね。	
	愛洲	さっきは消しゴムを取りに行かなくて良かった。	
	木の脇	この前、地震の勉強をしていて良かったね。	
	愛洲	そうだね。でも、この前勉強した時は地震の後には余震があるって言ってたね。	
		ところで余震ってなに？	
	木の脇	大きな地震の後に何度も起きる小さい地震のことだよ。	
		じゃあ、とりあえず運動場の真ん中に行って避難しよう。	
	愛洲	運動場に来たから真ん中に行こう。	
	木の脇	やっぱり地震の勉強が役にたったね。	
	ナレーター　A	ところで、みんな「お・は・し・も」って知ってる？	前に出て言う
		「お」は押さない。「は」は走らない。「し」はしゃべらない。「も」はもどらない。	「おはしも」のプラカードを持つ
		この「お・は・し・も」の約束を守ってね。	
家			
起きているとき	ナレーター　A	二人は家でテレビを見ていました。	
	さ	アハハハハ。おもしろーい。	笑う
	か	ほんとだー。おもしろーい。	地震が起こる
	2人	うわー！地震だー！！	
	か	家具や食器棚からはなれよう。	
	さ	テーブルの下に入ろう	ドアをあける
	か	なんか変なにおいがする。	
	さ	火事だー！！	後ろを向く

	か	ドアから逃げよう。	逃げる
	さ		
	ナレーター A	そして地震はいっかいおさまりました。	
寝ているとき	ナレーター A	二人は地震がおさまったので寝ることにしました。	
	音	バリーン	花瓶の割れる音
	スライムベス	起きろ！地震だ！	
	メタルスライム	わ～、ゆれてる。	
	スライムベス	まくらで頭を守ろう。	
	メタルスライム	机まで急げ！	
		けっこう長く揺れてるね。	
	スライムベス	揺れが止ったら、ドアを開けに行こう。	
		家族と一緒に避難しよう。	
	メタルスライム	非常持ち出し品も持って行こう。	
	ナレーター A	そして、翌朝、余震がありました。	
		そして、家族と一緒に避難しました。	
	ナレーター A	今日、地震が起きたときにそれぞれの行動の仕方を知らなかったら大けがをしてしまいます。	
	ナレーター B	みんなも地震が起きたとき、今のことを覚えていたら自分の命を守ることが出来るので	
		しっかり覚えていて下さいね。	
防災グッズ	ナレーター A	非常持ち出し品です。すぐにもって逃げれるところに用意してください。	
		貴重品	
		現金、預金、貯金、通帳、免許証、健康保険証、印かん など	
		衣類	
		下着、上着、タオル、紙おむつ	
		ラジオ、電池	
		乾パン、缶詰、水、水等	
		目薬、きず薬、胃腸薬	
		かぜ薬、ばんそうこう、包帯	
		懐中電灯(一人一個)	
		ローソク、ヘルメット、マスク、軍手、マッチ、ライター	
		缶切り、ポリ袋、ティッシュ、はみがきセット、靴	

防災教育チャレンジプラン

活動ﾏﾆｭｱﾙ　　実践団体名　高塚台２丁目自治会　(学校を巻き込んだ、防災・防犯を一体化した地域の安全・安心向上作戦))

■基礎データ

①	タイトル	かえるきゃらばん　IN　第三小学校　**～いかのおすし一人前～**【犯罪から身を守る】　(6年2組防犯寸劇ｸﾞﾙｰﾌﾟ)
②	活動の概要	総合学習時間を利用し"犯罪から身を守る－いかのおすし一人前"の寸劇を製作し、その製作過程、発表を通じて防犯についてを楽しみながら学ぶ。
③	目標・ねらい	寸劇をとおして防犯標語の"いかのおすし一人前"を理解し、犯罪より身を守る方法を学ぶ
④	活動で上げることができる力・能力	犯罪から身を守る術（すべ）
⑤	対象者（受ける側）	寸劇の製作は6年生2組の児童が担当、体験対象は全学年、保護者、地域の方を対象とする。
⑥	活動・作業形態	一学期(4～7月)の「総合学習時間(毎月曜日3・4時限(10:45～12:20)」を利用し、6名/グループで活動、防犯全体についての学習後、発表ツール（テーマ）の決定、シナリオ作成、小道具製作、リハーサルを経てかえるきゃらばん！
⑦	準備するもの（道具、材料等）	模造紙・ダンボール・絵具・マジック・CD・ラジカセ・防犯ハンドブックなど
⑧	所要時間	正規授業時間 ： ２０時限/日（４５分×２０回＝９００分）、打ち合わせ及び事前準備作業時間 :　20時間
⑨	必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	担任教師･河合町内防災士３名、６年生児童６名/ｸﾞﾙｰﾌﾟ×2ｸﾞﾙｰﾌﾟ
⑩	必要経費（所要額、財源）	１．⑦項の必要資機材を一括購入(他グループと兼用)　約３０００円(防災教育チャレンジプラン)

防災教育チャレンジプラン

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 防犯・防災全般についての学習	講師 1．防犯関係：西和警察署 2．防災関係：河合町防災士	1．6年2組全員で学習	1．DVD,パワーポイントを使用し学習。	防犯ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄを読みながら注意点を確認	"いかのおすし"の標語か注意点をよくまとめありわかりやすい		
② 防犯に付いて学習	参考資料 ・警察HP、 ・防犯ハンドブッ　クにて防犯について調べる	学校での防犯教育は？	どんか事にいつも気を付けているか(意見を出してもらう)	防犯ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄを読みながら注意点を確認	"いかのおすし"の標語か注意点をよくまとめありわかりやすい		
③ 何を材料としてどう表現していくか	"いかのおすし一人前"を使う	寸劇にしてシナリオから考え、発表する	啓発ポスターも同時に製作	ダンス"いかのおすし一人前"(三小版)を踊る	劇に使う小道具も製作		
③ 寸劇のストーリーを考える	学校の帰り道を想定して作る	・付いて行かない ・車に乗らない ・大声を出す ・すぐ逃げる ・大人に知らせる	・一人では遊ばない ・出かける前に を盛り込む				

防災教育チャレンジプラン

④	ポスターの製作	"いかのおすし一人前"にそって7枚のポスターを作る	各自が一枚ずつ製作						
⑤	小道具の製作	劇に使う背景画、樹木、車、帽子等を作る							
⑥	劇の練習	台本を完成させ実際に動いてみる	動きや声の大きさ等をチェック	劇については上手く指導できない	先生にチェックしてもらう	動きもなくストリーも、もう一度チェックしてすっきりさせる	劇についてはもう少し早い段階で先生のアドバイスをもらったほうがよかった		
⑦	ダンスの練習	金管バンドの部員の指導で練習							

防災教育チャレンジプラン

⑧	発表 かえるきゃらばん！当日	音楽室で	1回15分 4グループ4回公演 2グループで8回公演	その合間に児童は他の発表を見る					

■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

県内では「いかのおすし一人前」といえば第3小学校金管バンド！と県警のイベントなどによく出演しているが、楽しくマジメにこのことに取り組むのは初めてで、6年生が教える立場として低学年を意識した内容に取り組んだことで、理解が深まった。

②その他の評価

クラスの女子を2つに分け、それぞれに同じテーマでシナリオ～発表までを担ったが、班ごとに指定しなくてもリーダー役を担う児童がいたことで予想以上にスムースに仕上がった。

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど(反省)

※子供達の様子を知るためにも、もう少し先生からのアドバイスや意見を聞いた方がよかった。
※防犯についても、劇についても、自分に自信がない（素人の地域のおばさんとしては）のでどこまでアドバイスして良いのか、子供達の自主性にまかせて良いのか悩んだ、寸劇や道具作りに重心が行ってしまい、防犯についてのべんきょうが充分でなかった。

②参考資料等

奈良県のHP・警察のHP・防犯ハンドブック(県警製作)・安全、安心ブック・身近な危険から子供を守る本

防災教育チャレンジプラン

実践の詳細【総合学習の時間】　※学習時間は45分×2を基準

取り組み項目	打合せ	グループ分け・発表形式決める	防犯劇のストリーとセリフを考える	ストリーの練直し
実施日	5月12日	5月16日	5月23日	5月30日
所要時間	60分	45分X2		
達成事項		防犯について考えその表現方法を考える	前回のストリーを基準にセルフを考え配役を決める	登場人物の整理 ストリーを練り直し
成果物				
進め方	竹下さんとこれからの進め方について(いかのおすし一人前)を中心にして考えていく	・自己紹介・防災教育チャレンジプランについて ・グループ分け(防災・防犯各12人) ・学校での防犯教育やどんな事に気を付けているか(意見をもらう) ・どの様な形で発表するか→寸劇とダンス ・いかのおすし一人前を表現する(寸劇) ・ポスターも作って、劇の時張る ・防犯をさらに2グループに分け6人ずつで劇を考える	防犯パンフレットを読みながら子供の防犯について復習 前回のストリーにセリフを加える 配役・小道具を考える	"いかのおすし"を劇の中に効果的に入れるよう工夫 台本を読んでみる ポスターの原案を考える(7枚作る)
ツール	演題は色々思考錯誤したが子供に一番浸透しているのは「いかのおすし一人前」のではと決定		防犯パンフレット 前回決めた大まかなストリーをプリントして配布	
場所	町内　ゆとり	6年2組教室	6年2組教室	6年2組教室

2011年度　高塚台2丁目自治会

防災教育チャレンジプラン

実践の詳細【総合学習の時間】　※学習時間は45分×2を基準

取り組み項目	ポスター・小道具製作	左記の続き	防犯劇の練習	ダンス・劇の練習
実施日	6月06日	6月20日	6月27日	7月04日
所要時間	45分X2		45分X2	45分X2
達成事項	ポスター・小道具の木を作る	台本のセルフのつけ足し ポスター・小道具	劇の完成 ダンスの練習	劇の練習 ダンスの練習
成果物	ポスター(7枚)	台本完成・木		
進め方	"いかのおすし"のポスター7枚にする	木・地図仕上げ 台本にセリフを加える	ポスター補強 劇の練習(セルフのしゃべり方、立ち位置の工夫) ダンスの練習	ポスターを張って劇を通して練習する ダンスの練習
ツール	模造紙 絵の具 ダンボール カラーマジック		台本(コピーして全員分用意 ラジカセ・CD	CD・ラジカセ
場所	図工室	準備室	図書室	図書室

2011年度　高塚台2丁目自治会

防災教育チャレンジプラン

実践の詳細【総合学習の時間】　※学習時間は45分×2を基準

取り組み項目	打合せ	リハーサル	準備(設営)	発表会
実施日	7月05日	7月11日	7月15日	7月19日
所要時間		45分X2		2時間
達成事項		小道具を使って寸劇をする	19日、すぐに始められるように	寸劇・ダンスの発表
成果物				
進め方	当日の発表のやり方を具体的に検討 場所の変更 (図書室→音楽室)	吉川先生に劇を見てもらいセルフ・動作を再チェックしストリーを短くする	音楽室使用中の為 発表当日開会前に 準備をする	※ポスターを張る ※1グループ4回 公演 ※2グループで8 回公演 ※合間に他のグループの防犯・防災活動の発表を見る
ツール		ポスター・小道具ラジカセ・CD		ポスター 小道具・背景画 CD・ラジカセ 防犯ブザー
場所	図書室	音楽室	図書・音楽室	音楽室

2011年度　高塚台2丁目自治会

		
防犯寸劇背景	防犯寸劇背景用ポスター	
		
防災寸劇（人形劇）背景	防災寸劇（学校にいるとき）	

<table>
<tr><td>  </td><td>  </td><td>  </td></tr>
<tr><td>全員で語り部さんの講話</td><td colspan="2">４年生が人未来と防災センターで学んだことを壁新聞にしてかえるきゃらばん！当日に体育館に掲示</td></tr>
<tr><td>  </td><td>  </td><td>  </td></tr>
<tr><td colspan="3">４年生が人未来と防災センターで学んだことを壁新聞にしてかえるきゃらばん！当日に体育館に掲示</td></tr>
</table>

		
（7/19）4～1年生を８つのグループに縦割り。教員でグループシフトを作り、全員が同じ内容を待ち時間なく回れるよう配慮。		

		
夏休み PTA イベント燈火会にて（8/6） 耐震体験コーナー	夏休み PTA イベント燈火会にて（8/6） 別校区泉台自主防災会と連携。	
		
1/17　小学校耐震講座（5.6 年生対象）		

		
9/2　小学校耐震講座（6 年生対象） 建築士からの講座。	紙ぶるるや砂を用いての実験。	別校区星和台自主防災会と連携。 耐震モデルハウス等を用いての実験・体験。

活動ﾏﾆｭｱﾙ

実践団体名：高塚台２丁目自治会(学校を巻き込んだ、防災・防犯を一体化した地域の安全・安心向上作戦)

■基礎データ

①	タイトル	家屋の耐震化、家具転倒防止講習会及びモデル事業の実施
②	活動の概要	体験型講習会(見て！、触れて！、体験して！）を開催する事により耐震、転倒防止の必要性と実務を理解してもらう
③	目標・ねらい	自宅の耐震化＆身近にあるものを利用し安価な家具転倒防止対策を広める。
④	活動で上げることができる力・能力	実務に関連する工具類、必要資機材の取り扱い及び実践力
⑤	対象者（受ける側）	地域の住民
⑥	活動・作業形態	体験時、参加者を6人～１０人位のｸﾞﾙｰﾌﾟわけを行う。各グループには防災士等のサポーターを配置する。
⑦	準備するもの（道具、材料等）	ﾓﾃﾞﾙﾊｳｽ(1/2縮尺の家屋模型)，電動ドリル（インパクトドライバー）、各種ネジ類、固定金具、その他
⑧	所要時間	3時間
⑨	必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	ﾓﾃﾞﾙﾊｳｽ班出入、組み立て2～3名、講師1名、サポーター２～3名(班出入兼）、会場準備(班出入兼）１～２名
⑩	必要経費（所要額、財源）	講師派遣費用(奈良県負担)

防災教育チャレンジプラン

■活動の流れ

資料 ↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① ○年間スケジュール調整	・自治会年間スケジュールとの調整	・屋外実施イベントを優先する。	・本イベントは屋内でも実施可能				
② ○派遣講師のスケジュール確認及び手続き	・派遣講師のスケジュール確認	・講師派遣手続き					
③ ○地域住民及び関連機関への広報	・地域住民への広報 ・参加者の呼びかけ ・参加者の集計	・関連機関への連絡(河合町役場)、協力要請					
④ ○講師との事前打ち合わせ	・対目スケジュール ・講習内容 ・準備品 ・担当役割 ・配布資料の部数						

防災教育チャレンジプラン

⑤	○準備(実施日前日)	・ﾓﾃﾞﾙﾊｳｽの半出入 ・ﾓﾃﾞﾙﾊｳｽの組み立て ・会場設営						
⑥	○準備(実施日当日)	・施工工具の陳列　・施工資機材の陳列 ・プロゼクター						
⑦	○実施日当日	・多くの人に体験してもらう工夫	①インパクトドライバーによるビス打ち ②ビニルシート貼り付けたガラスの破片飛散状況の確認	③固定金具の設置場所確認方法 ④その他	・アンケートの記入依頼と収集			
⑧	○実施日後日	・アンケートの集約						
⑨	○モデル事業の呼びかけ	・老人会、いきいきサロンなどを通じて呼びかける。	・独居老人宅，老・老夫婦宅などを優先して呼びかけ					

防災教育チャレンジプラン

■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

・初期は当年度の自治会委員の出席が中心であったが回を重ねることに一般住民の方が増加してきている

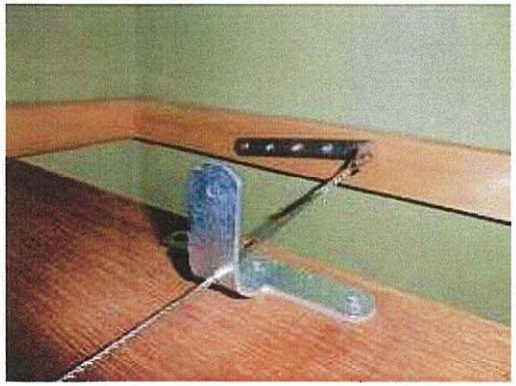
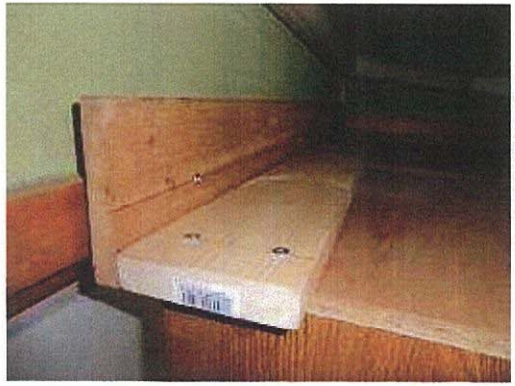
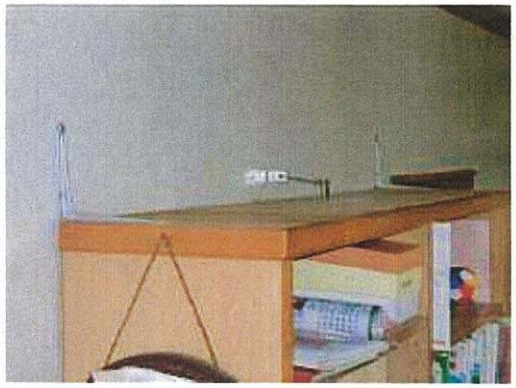
②その他の評価

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

・体験型(参加型)の講習会が好評である。初めて触ったインパクトドライバーにおっかなびっくり！　でもこれだったら私にも出来る！
・講習会実施後のフォローが必要

②参考資料等

		
12/10　自治会家具転倒防止講習会。 この他、ｲﾝﾊﾟｸﾄﾄﾞﾗｲﾊﾞｰ等を使った体験・防災士による座学。	転倒防止モデル事業。 地区内Ｙ邸　箪笥固定	転倒防止モデル事業。 地区内Ｙ邸　箪笥固定
		
転倒防止モデル事業。 地区内Ｙ邸　箪笥固定	転倒防止モデル事業。 地区内Ｔ邸　本棚固定	転倒防止モデル事業。 地区内Ｔ邸　食器棚開放防止策

		
消防署員から説明	自治会内の高齢者サロンボランティアによる炊き出し（おにぎり、すいとん汁）	人と未来防災センターで一緒に学んだ４年生を訓練に招待

活動指導案

実践団体名　河合町高塚台2丁目自治会自主防災会・防犯パトロール隊

■基礎データ

① タイトル	ゼロからの組織立ち上げ（人づくりの流れ）
② 活動の概要	一人でもやり抜く覚悟で「地域のために役立ちたい」と朝夕愛犬（ラブ）との散歩時が始まり。
③ 目標・ねらい	仲間づくりのための人材発掘の出会い作りを朝夕の犬との散歩時、ソフトボール同好会、ゴルフ同好会等でつくる。
④ 活動で上げることができる力・能力	毎日できるだけ多くの人と親しくなるため、挨拶と声かけで人間関係を深めようと努力。
⑤ 対象者（受ける側）	地域の自主活動にやり甲斐を感じそうな人をマークする。
⑥ 活動・作業形態	強制加入は避け、フリータイムに無理の無いように取り組み、来れるときに来れる人が出来ることを強調。
⑦ 準備するもの（道具、材料等）	一対一での説得資料　フリータイムの有効活用具体例　危険マップ　学校行事予定表　同意書（連名）　グリーン帽などユニフォーム一式
⑧ 所要時間	人間関係づくりに充分時間をかけるので、各人毎に費やす時間は違う。"言っておいたから大丈夫だろう"ではだめ！！
⑨ 必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	"あの人にならついて行く"と云った日頃の活動の姿が説得力。率先行動力、気配り、包容力がリーダーシップ発揮に不可欠。
⑩ 必要経費（所要額、財源）	財源稼ぎにアルミ缶収集の協力乞う。自治会の協力大。一人分一式約5,000円（グリーン帽1000、ベスト1000、ジャンパー1000、防犯チョッキ2000）

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 多くの人を知るため、自分から行動を起こす。	毎日朝夕愛犬との散歩時に挨拶声かけの励行。	出きるだけ散歩の時間を決める。	趣味の面から ・ソフトボール同好会 ・ゴルフ同好会等に努めて参加。				
② 多くの人に会う。	積極的に挨拶声かけをするよう努力。	下を向き、顔をあげない人は先ずだめと思うが、時間をかけてみる。	気楽に声かけができるまで。	趣味等の話を。例えば一万歩、野球、ゲートボール、グランドゴルフ等	話す回数、時間を気にしないようになるまで。	雑談や冗談が言えるようになって。	特技を聞き出そう。 例：工作、土いじり、花、畑
③ 人材発掘を心がける	「何か地域に役立ちたい」という気持ちの持ち主を右記の人材から探そう。	・声の大きい方 ・声かけに反応のある方 ・行動的な方	・気軽にものの言える方 ・笑顔の出やすい方 ・子ども好きな方	・犬の散歩好きな方 ・散歩好きな方 ・民生児童委員の現役及びOB ・スポーツマン	自分から挨拶声かけを進んで実行でき、アルコールが飲める方	年上の方には尊敬の念を持って接するように！	年上の方に十分相談して、理解いただき強い支援者として位置づける。
④ 立ち話が出来るようになれば	防犯グリーン帽をかぶり、愛犬との散歩をかねてのパトロールを話す。	H13の大阪池田小学校の児童殺傷事件後、同志による防犯パトロールをしていることを話す。	防犯グリーン帽子が挨拶、声かけを気軽にさせて後押ししてくれる	グリーン帽が防犯への抑止に役立っていることを話す。	散歩パトロール時、特に子ども・高齢者を意識し、挨拶・声かけを励行。（オレンジリング）	同志で地域を守りたい意気を示す。	防犯ボランティアの輪を拡げたいと訴える。

⑤	"やってみようかな"と興味がでかけところで、(私の毎日の活動を見て共鳴された方)	一対一で資料をもとに話をすすめる。	資料として ・フリータイムの活動例 ・地域危険マップ ・小学校行事予定表	同志としては、目つき・質問等で本気性を見抜く。	連名(9名)の同志書に署名も			
⑥	連名の同意書に署名が済むと	出来るだけ早くユニフォーム一式をお持ちする。	グリーン帽 ジャンパー ベスト 防犯チョッキ	受け取られたら同志としての活動間違いないし。	グリーン帽をかぶるだけでも使命感が生まれ、やり甲斐も感じるでしょう。	隊員になったと友達に話す。 メッセンジャー、ボランティア(しゃべり屋)がいてもいいのでは。		
⑦	具体的な活動とは	来れる時に来れる人が出来ることをやるのです。	9つの活動 ・全面的に挨拶声かけ運動 ・児童登下校時の見守り	・夜間パトロール ・わんわんパトロール(ワンパト) ・散歩パトロール(サンパト)	・最寄り駅の自転車の整理整頓 ・公園美化 ・オレンジリング(認知症の方保護)	・青色パトロール(3台)		
⑧	ほめ言葉を忘れずに	一寸した事でも最後まで話を聞いて、ほめ言葉を忘れずに						
⑨	"やり甲斐"を感じるとき	子どもから「おじさん毎日ありがとう」と感謝の言葉をもらうとき	一年生の終わりに一年間の感謝に気持ちを込めて花や花の種を送ってくれたとき	毎朝学生やサラリーマンから「おはようございます。ご苦労様です」の労いの言葉をもらったとき				
⑩								

■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

地域のために毎日できることをしばらく(2～3年)黙々とするような活動が一番効果があった。

②その他の評価

継続することから組織の芽が生まれると信じる。

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

何事も自分からやってみることから始め、次に理解ある分身(後継者)を造り、手足になってもらうことができればさらに良い。
総体的に目・耳を使って周りをしっかり把握し、できるだけ些細なことまでの気配りが大切。

②参考資料等

60年以上の人生経験から人間の関係づくりが一番の生きた参考資料です。

※ 活動指導案作成のための準備物 ： ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

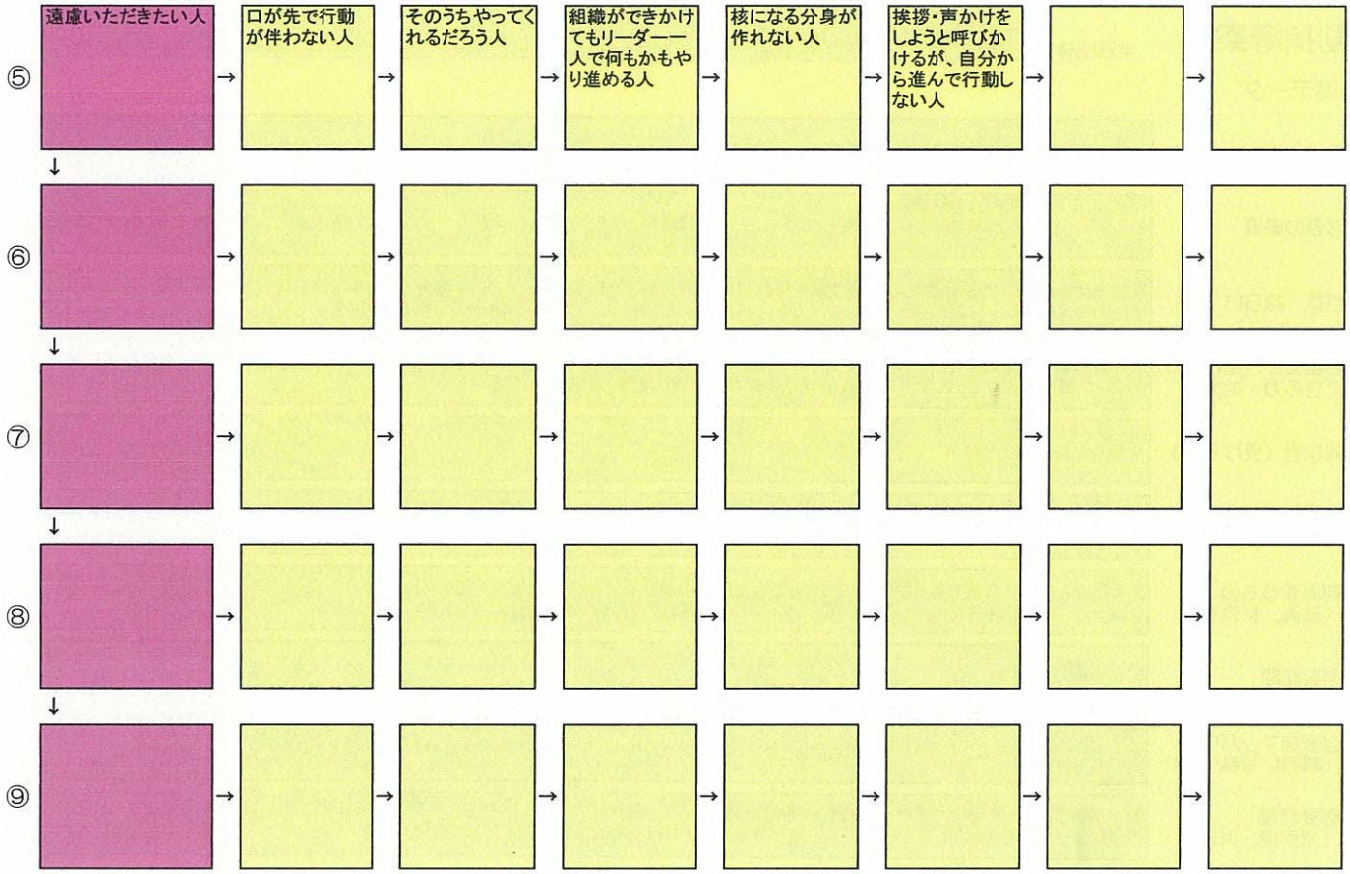
実践団体名　河合町高塚台2丁目自治会自主防災会・防犯パトロール隊

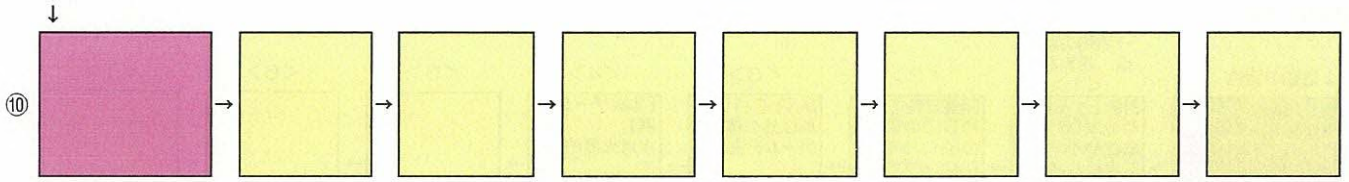
■基礎データ

① タイトル	ボランティア・パトロールリーダーとは
② 活動の概要	地域の安心・安全への旗揚げ
③ 目標・ねらい	組織の立ち上げと共にリーダーの存続
④ 活動で上げることができる力・能力	継続は力なり
⑤ 対象者（受ける側）	信頼関係
⑥ 活動・作業形態	有言実行
⑦ 準備するもの（道具、材料等）	責任感
⑧ 所要時間	無限
⑨ 必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	行動力、指導力、統率力（判断力、包容力、強調性等）
⑩ 必要経費（所要額、財源）	金より汗

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① ボランティア・パトロールリーダーとは	本当に情熱と生き甲斐を活動から感じられる人	口が先で行動力を伴わない人はだめ	"そのうちやったら"はだめ				
② 指導者・統率者 素材 （能力として）	行動力 指導力 統率力	判断力 包容力 協調性	等のある人				
③ 人材発掘	学生時代にスポーツ等の主将の経験のある人	・自治会長 ・民生児童委員 ・地域安全推進委員 ・老人会長	スポーツ同好会長・サークル会長の経験のある人				
④ リーダーに適性のある人材を選ぶ	時間をかけて適性を見抜く	大声で話ができ、思いやりがあり、涙もろい人	気軽に話しかけができる人 横文字を使わない人 話の聞き上手な人できれば酒の飲める人	先輩の方を大切にし、褒め言葉が出る方	5年はリーダーとして存続できるよう、60歳代前半の年金生活者が最適		





■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

②その他の評価

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物 ： ①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名：高塚台2丁目自主防災会

■基礎データ

① タイトル	かわいっこ かえるきゃらばん！ の展開
② 活動の概要	「防災と言わない防災」の活動実践。 かえっこバザールというおもちゃの交換イベントをメイン（起爆剤）として、各種防災体験をゲーム化して誰でも楽しく参加できる防災を目指す。
③ 目標・ねらい	防災意識が希薄な年齢層や地域の防災訓練に参加しない（しにくい）世代をターゲットに、無理なく防災意識を浸透させ、将来的な地域のリーダーとなりうる人材を育てるとともに、子どもの頃から防災に親しむことによる「防災の日常化」を狙う。
④ 活動で上げることができる力・能力	例えば水消火器を的当てゲームにして子どもが繰り返し遊ぶことで消火器の扱いが非常に長けてくる。それらを体験した子どもだけでなく、関わった親や大人が協力し合うことによる地域の絆が強化され地域力のUPにもなる。
⑤ 対象者（受ける側）	全ての住民。
⑥ 活動・作業形態	フリーマーケットやバザーをイメージすると良い。
⑦ 準備するもの（道具、材料等）	かえるのスタンプ（発案であるかえっこ事務局が世界共通の遊び通貨として採用しているスタンプで、日本全国のみならず世界中で通用することからこれを使用している）一本1800円。スタンプカード、家庭で子どもがいらなくなったおもちゃなど。
⑧ 所要時間	半日～一日。
⑨ 必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	かえるきゃらばん！として行う場合、最低8人（かえっこバザールに4～5人・各体験ゲームひとつにつき2～3人）
⑩ 必要経費（所要額、財源）	0～5000円くらい（河合町ではかえるスタンプを町が貸し出している） 体験によって必要なものが異なってくるが、概ねほとんど経費は必要ない。

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 規模と活動内容、開催日時を決める	対象とする年代や地域（自治会単位や小学校区単位など）を決め、参加人数を見込む	開催日時を決める（この時、他のイベント等とタイアップするとより効果的）	かえっこバザール以外の体験ゲームを決める	【体験ゲーム例】 水消火器的当て 非常持ち出し品探し ジャッキによる			
② 場所を確保すると同時に、かえっこバザールと体験ゲームの準備をする	地域の集会所、小学校等の開催場所を確保する	かえっこバザールで必要となるもの（スタンプカード、遊び方説明書、ポイントチケット、ポイント表示票等）を作成する	かえっこバザールで必要な資機材（不要になったおもちゃ等）を準備する。	おもちゃは回覧等で周知するとともに役員や知人を通じて状態のいいものを集め、人気度に応じて1～3のポイントシールを貼っておく	体験ゲームで必要となるもの（水消火器、非常持ち出し品カード、ジャッキで救出される人形等）を作成す	体験ゲームで必要な資機材（水消火器、油圧ジャッキ等）を準備する	
③ 当日の準備をする	開催場所に用意したものを運ぶ。（前日からやっておくほうが良い）	かえっこバザール開催エリアにブルーシートを広げ、1～3ポイント別におもちゃを配置する	かえっこバンクに ・スタンプカード ・スタンプ ・事務用品 等を設置する	かえっこレジに ・事務用品 ・おもちゃ持ち帰り用袋 等を設置する	高価なおもちゃや特に人気のありそうなおもちゃをオークション品とし別に設置する	体験ゲームで必要な資機材を配置し担当者にポイントチケットを渡しておく	
④ かえるキャラバン開始	開会宣言をする	かえっこバンク参加者がおもちゃを持ってきたらそれを査定し、ポイントカードにポイント分のスタンプを押	かえっこバンク体験ゲームでポイントチケットをもらった子にチケット分のスタンプを押す	かえっこレジ子どもが選んできたおもちゃのポイント分だけスタンプカードのスタンプを消しこむ	かえっこバザールオークション別枠にしたオークション品をポイントを利用したオークション形式で競り落と	体験ゲーム子どもにゲームの主旨を説明し、体験させる。チケットを渡し、かえっこバンクでポイントに換えてもらうよう促す	

⑤	かえるキャラバンの評価	まず子どもたちの声を聞く	体験ゲームの利用者数を把握する	耐震診断、耐震改修の申し込み増につながったか確認する				
⑥								
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								

■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

子どもが楽しんで「今度いつあるの？！」「またして！」「また来たい！」などの声があがれば◎　体験ゲーム者数

②その他の評価

大人だけではなく子どもも一緒に楽しむ → 子ども主体のイベントとなっていけば言うことなしと思います。 耐震診断や耐震改修の申し込みが増加すればよい

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

無理をしない。楽しくやる。やりたいときにやる。やりたい子どもを集める。
がんばりすぎると後々しんどくなって続けていくのが困難になるので、できる範囲でできることをやりましょう。みんなが楽しめればそれだけ効果はあったと考えて、次につなげる。また、このイベントは防災だけではなく、教育・環境・福祉・・・と、様々なテーマで行うことができます。こどもたちは「かえっこ」が大好きです。おもちゃの新旧・壊れてるなんて気にしません。何10回も消火器にやってくる子もめんどうくさがらず、楽しませてあげることが継続する上で重要だと思います。

②参考資料等

かえっこ事務局（かえっこバザール）HP：http://kaekko.exblog.jp/i0/
NPOプラスアーツ（かえるきゃらばん本家）HP：http://www.plus-arts.net/

※ 活動指導案作成のための準備物 ： ①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

水消火器で火をやっつけろ！



木材に挟まれたかえるくんをｼﾞｬｯｷで救出



かえっこバザール。どのおもちゃにしよう・・・。



非常持ち出し品には何がいる？



余った紙や新聞で非常用食器づくり。



締めはかえっこオークション。誰が競り落とすかな？



活動指導案

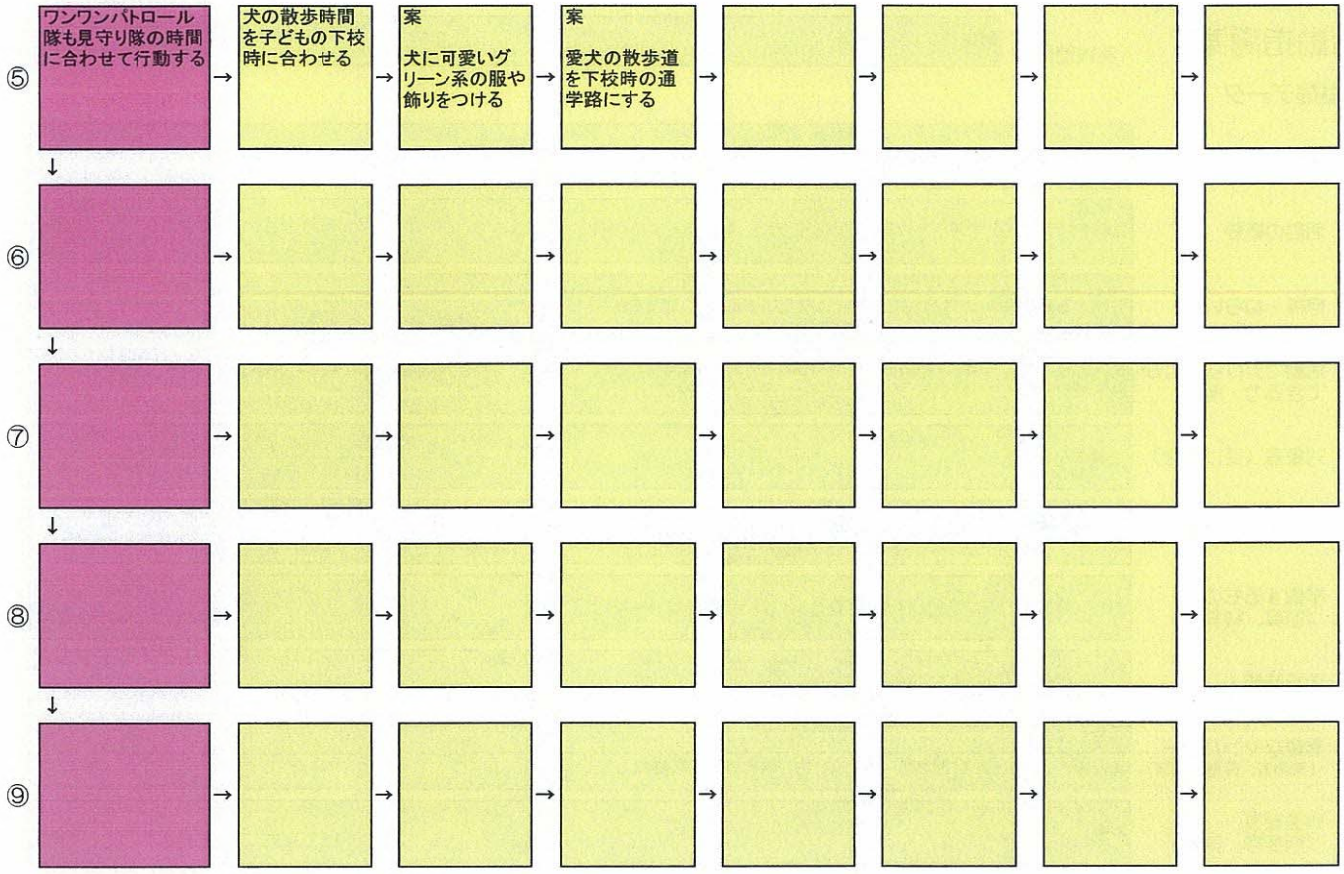
実践団体名　高塚台2丁目自治会

■基礎データ

① タイトル	児童下校見守り(リレー方式による見守り)
② 活動の概要	高齢化しつつある見守り隊の負担を少なくしつつ、効率良く子どもたちを見守る。
③ 目標・ねらい	下校する児童を少しでも安心して安全に帰宅できるよう見守ること。
④ 活動で上げることができる力・能力	当地域は坂道ばかりの(結構急な坂道が多い)ため、高齢化しつつあるパトロール隊の移動距離を少しでも減らし、少人数でも効率よく児童の下校を見守ることができ、持ち場間の隊員同士の交流も深まる。
⑤ 対象者（受ける側）	地域の小学生
⑥ 活動・作業形態	児童通学路における見守り活動をリレー形式で行う。 既存のワンワンパトロール隊と協力し、散歩の時間を下校時に合わせる。
⑦ 準備するもの（道具、材料等）	グリーン帽、グリーンジャンパー、防犯ベスト、旗(交通安全用)など
⑧ 所要時間	児童下校時の約30分 下校時間帯　A.12:00　B.13:00　C.14:15　D.15:00　E.16:00
⑨ 必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	地区の広さによる 責任感があり子ども好きで思いやり深い方。奉仕精神が旺盛な方大歓迎！
⑩ 必要経費（所要額、財源）	不要

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 児童下校時に各ポイントで見守る	下校時間は学年により異なる。 主に低学年を重点的にしている	学校行事予定表(学校より提供されている)により、低学年児童の下校時間を把握する	隊員の自宅近くの通学路ポイントにて立哨		※下校時間に変更がある場合は 学校→隊長→事務局→隊員と連絡する	隊員間の情報交換をしっかりし、間違いのないようにする	
② リレー見守りのポイントを決める	通学路に5～6か所の立哨ポイントを決める	隊員同士がお互いの姿が見える位置にポイントを決める	坂の上、坂の下などのポイントを考え、隊員の移動距離を短くする				
③ リレー見守りを行う	児童が通過したら、次のポイントの隊員に旗を振って知らせる	これを繰りかえす	低学年はなるべく家やマンション近くまで見送るようにしている 保護者の協力も不可欠	下校は一斉ではないが、なるべく道路がみえる場所に立つ	信号のない交差点を通ることもあるので、児童が歩行できるよう見守りは忠実に行う		
④ 問題点の定義(反省)など	学校、PTA、防犯パトロール隊の定期会合により討議	防犯パトロール隊の会議により、相互の意見を出しあい共有化を図る	日常会話の中での話し合い(隊長と隊員、隊員同士)				



■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

朝の見守り活動は4部団8～12名に対し、下校時の見守りは5～6名と減少する。原因が家庭の雑用や所用などと重なる時間であるからか？また、午後の散歩は4時（16時）以降が多く、時間がかみ合わないのも原因。こうした理由により、少人数となった見守り隊員でもこの方法を用いれば、効率良く活動できている。

②その他の評価

足腰が弱っている隊員なども負担が少なく、活動に参加しやすい。また、参加している仲間にも喜ばれている形態である。やはり、坂道の登り降りは体力的にキツイ場合があるので、無理して長距離を移動するよりも効率が良い。

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

無理のない範囲で自宅近くにある立哨ポイントに立ち、参加すること・子どもたちとのあいさつやふれあいを楽しむ。

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物 ： ①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名　高塚台2丁目自治会

■基礎データ

① タイトル	児童下校時の不審者対応
② 活動の概要	下校時に挙動不審者が現れた場合を想定し、「110番の家」家人や警察も参加し、公園で不審者に声をかけられたら「こども110番の家」に駆け込み助けを求めれば、家人から警察に連絡してもらえ、保護してもらえることを子どもたちが知る。
③ 目標・ねらい	子どもたちが不審者への対処方法を知る。 子どもたちが「子ども110番の家」が何であるかを知る。 地域住民の見守り意識の向上。
④ 活動で上げることができる力・能力	狙われかけたときに大きな声が出せるようになる。 「子ども110番の家」へ駆け込むことの習慣化。
⑤ 対象者（受ける側）	校区内の小学生
⑥ 活動・作業形態	「子ども110番の家」の旗を掲げている地域住民とその家。 警察協力による犯人役づくり。 警察署生活安全課からのパトカーの出動。
⑦ 準備するもの（道具、材料等）	子ども役の子ども2名（できれば高学年1名・低学年1名（実の姉・弟で実施した）、子ども110番の家（インターホンがある方が良い）、子ども110番の家家人
⑧ 所要時間	訓練所要時間30分程度
⑨ 必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	実演者2名、犯人役1名、子ども110番の家在宅者1名
⑩ 必要経費（所要額、財源）	不要

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 小学校に訓練内容を説明する。	知らない人（不審者）から声をかけられたとき、どのように対応するかを教えるのが目的。	さらわれかけたとき（浚われたとき）大きな声を出せるようにする。	「こども110番の家」を子どもたちが知っており、きちんと把握しているのか？に留意する。	訓練することで意識と行動を向上させるようにもっていく。			
② 警察に相談。	いざというとき、警察は子どもたちの味方だと子どもたちに知ってほしい。	犯人役は普段見守り等をしている近所のおじさんでは不適切。	警察から犯人役を出してもらう。（顔を知らない不審者）	実際にパトカーや警官が参加することで住民の安心感や信頼感を増幅することも期待できる。	地域小学校と警察が身近になるチャンスでもある。		
③ 日時・内容の決定。	いつ・どのように実施するかを決める。	校区内全てで同時進行はできないので、場所を絞って計画する。	以降、校区内の公園や近隣で持ち回りするのも良い。				
④ 具体的な内容・進め方を決める。	配役の決定。 高学年1名 低学年1名 犯人役1名 110番の家人1名	子ども役をお願いするお宅のご両親にも了解を得る。	110番の家は実施する公園等の近くの家・（理解のある）家人が適当。				

⑤	訓練を行う。	小学校に児童の見学を依頼しておく。	子どもたちに「もし、自分だったら…」を意識させる。	※校長先生の話などがあっても良い。					
⑥	事後検証。	犯人はどんな人相？	犯人はどんな服装？	犯人の背の高さは？	犯人に関する子どもたちの記憶をチェックするため、子どもに発表させる。	あわてたときの記憶力や記憶がどんなものであるか、子どもたちに知ってもらうことも良い。	もし自分だったら？の再確認。		
⑦	講評。	最後に、警察の方かパトロール隊隊長から一言。							
⑧									
⑨									
⑩									

■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

校区で実施とはいえ、あまりに人数が多すぎると見学できなかったり、真剣さに欠けるので、見学者50−60名くらいまでが妥当。人数が多くなるようであれば、場所・日時等をわけて行うなどの工夫をした方がより効果的。本当に知らない人（警官など）に声をかけられることで、子どもが危機感を持つようになる。

②その他の評価

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

学校・地域・警察の根回しのため、平生からの「おつきあい」が大切。それができていれば何事もスムーズに事が運ぶ。

②参考資料等

きっかけは、「地域の公園等で子どもたちが安心して遊べればよい」という思い。普段から防犯灯の球切れに気を配り、公園まわりの植樹が高すぎたり茂りすぎたりしていれば行政に声をかけ、公園内の安全を少しでも向上させることができれば…。→また、「子ども１１０番の家」が風化し、子どもたちにきちんと理解されていない（根付いていない）のではないかとの危惧もあった。

※ 活動指導案作成のための準備物 ： ①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名　高塚台二丁目自治会

■基礎データ

① タイトル	家庭内消火器の有効活用とメンテナンス
② 活動の概要	防災訓練を機会に有効期限切れの消火器を供出してもらい実技体験に使用する。
③ 目標・ねらい	①供出時に有効期限の確認 ②メンテナンス(最充填、部分補修等)により初期の機能を確保 ③適正保管場所の設置に気づく。
④ 活動で上げることができる力・能力	消火器の操作方法を学ぶ(実消火器による模擬火災の消火)
⑤ 対象者（受ける側）	地域住民
⑥ 活動・作業形態	地域家庭より有効期限切れ消火器を供出してもらい、その消火器を使用し消火訓練を行う。使用済消火器はメンテナンスを行い再使用する。
⑦ 準備するもの（道具、材料等）	有効期限切れの消火器
⑧ 所要時間	訓練全体3時間(当該訓練30分)
⑨ 必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	10名【①案内･収集(自治会)②有効期限の確認③メンテナンス(最充填、補修･･･業者)④配達･集金(業者)】
⑩ 必要経費（所要額、財源）	消火剤の最充填、補修及び廃棄処分費用は各自負担

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 防災訓練の案内	案内状の作成 ①主旨 ②日時 ③場所	配布 ①自治会配布ルート活用)	家庭で所有の消火器の使用期限等を確認。	供出可能者は集会所まで持参してください。	持参不可の方はその旨申し出てください。自治会が回収します。	各価格の案内 ①新規購入価格②最充填価格 ③廃棄処分費用	
② 消火器の収集	消火器供出者の ①氏名②住所③電話④再充填、廃棄等の用件を記載したﾒﾓの貼付	自主防災会や民生児童委員が訪問して回収するお宅も。					
③ 訓練で使用可能な消火器の選定	消火器業者に事前に訓練会場への来場を依頼しておく	有効期限の確認と機器全体の劣化確認	消火訓練に使用可能な消火器の選定				
④ 消火訓練	消防署に事前に訓練会場への来場を依頼しておく	消火器の操作要領等の説明	実技指導	消火訓練は原則供出者が実施する。			

⑤	消火器のメンテナンス	→ 使用済消火器を業者が持ち帰る	→ 容器の耐用確認と判定	→ 必要に応じて補修	→ 再使用可能容器への最充填	→	→	→	
↓									
⑥	消火器の各家庭への配達・集金	→ 業者と、自治会による配達	→ 設置場所等についての説明	→ 集金(業者の直接集金が望ましい)	→	→	→	→	







■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

平成21年‥5台を訓練に使用し最充填。平成22年･･･16台を訓練に使用し15台を最充填、1台廃棄処分

②その他の評価

実消火器による模擬火炎の消火で実践さながらで取り組む。又、子供向けには水消火器による的当てで、ゲーム感覚で消火器の操作方法が学べる。

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

高齢の供出者には自治会で収集に出向くのが望ましい

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物 ： ①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名　高塚台2丁目自治会

■基礎データ

① タイトル	学校支援ボランティア
② 活動の概要	学校支援ボランティア隊員による特技及び能力に応じた学校支援
③ 目標・ねらい	学校の美化・整備を行い、環境の良い場で児童に授業を受けさせると共にボランティア活動の素晴らしさを伝える（知ってもらう） ＝地域の模範となる学校でありたい
④ 活動で上げることができる力・能力	地域の学校支援を目的として、河合第3小学校の環境整備と教員の負荷（雑用）軽減及び児童の情操力の向上 地域住民との交流、次世代リーダー育成
⑤ 対象者（受ける側）	地域の全児童、保護者及び教員
⑥ 活動・作業形態	校内の園芸・除草・樹木の剪定・学習の指導補助・プールの監視・設備のメンテナンス（できる範囲のこと）
⑦ 準備するもの（道具、材料等）	各人の技術に応じた道具で支援ボランティア所有の工具と学校が保有する道具を活用
⑧ 所要時間	各月2～3回（ただし、夏期・冬期は別工程）／1日の工程：2～3時間、年間スケジュールによる
⑨ 必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	当該地区の学校では 除草14名、剪定5名、園芸4～5名、作業内容にPTAの応援を求めることもある
⑩ 必要経費（所要額、財源）	工具・設備の修理（2300円）、消耗品（3000円）、苗・肥料（53500円）　本年（5～12月実績）合計79500円 計画予算を申請・学校で決済（公費負担）

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① ボランティア活動を通じて学校の門戸を開く	<1> これまでのボランティアパトロールの実績が下地となっている	子どもたちとの対話やふれあいを密に持ち、互いの信頼関係を築く	子どもたちの目線で物事を考え、個人を指導するつもりで	教員との交流の中で実態を知り、「何が必要か」を考える	子ども一人ひとりが自分の子どもであり、孫である認識のもと「大切に育てる」気持ちで	校内の設備や樹木をよく知る（校庭の樹木リストを作るなど）	
② 地域全体で学校を支援し、情操的なグレードを上げる	学校が別世界ではなく、身近な存在として地域向上の原点として考える	小学校は詰め込み教育ではなく、人間形成の情操教育の場として位置付ける	感受性の高いこの時期が大切で、物事の善し悪しのケジメをつける	時には注意し、叱ることも必要	目上の人を敬い、友達と仲良く 人としての常識を教える気持ち	子どもたちから見た「良いボランティアのおじさん（おばさん）」と親しみを持ってもらう存在でありたい	
③ 子どもたちとともに汗を流し、楽しみ、共通の思い出づくりを持つ	学校農園を通じて土を耕し、種をまき、水をやり…育てる苦労を知る	農園の一角にみかんの木を植え、幼虫を育て、揚羽蝶の生態観察をする	野菜の苗を植え、農園の草取りをするなど、生長記録を撮る（写真など）	校庭の草を皆で抜き、美しくなった喜びを知る	芋ほり、ひょうたん収穫など、収穫の喜び、楽しさを味わう	収穫したさつまいもで焼き芋パーティーを楽しむ（学校から消防に怪煙届を出し、校庭で行った）	
④ 隊員の士気高揚と意識改革及び持続性を高める	作業を通じてよりよい人間関係をつくり、共に働く喜びを知る	社会に奉仕している実感を味わい、世間に役立っていることを認識する	子どもたちとのふれあいの中で、若さを貰い、自分自身が活性化する	学校の事業を手伝い、参画し、自分たちの力を誇示できる場とする	物作りの原点を知り、作る楽しさを実感する	隊員同士が協調することにより、働く団結力を養う	



■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

発足(作業開始)して約半年であり、評価の目標数値等が設定されていないが、校内の美化等に著しい変化が見られる。対外的にも良い評価があった。隊員の参加率も高く、今後、一年を経過した時点で目標値を設定したい。

②その他の評価

子どもたちが我々ボランティアに対する尊敬の念が目に見えてわかるようになり、校内でのあいさつやありがとうの声が大きくなっている。隊員の作業に興味を示し、感謝の意を表すなど教師のボランティアへの取り組みが子どもたちにも顕れている。

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

ボランティアパトロール隊として結成以来9年目となる実績と隊員同士の団結力、また、今日までの学校との信頼関係があってこその活動です。隊員が培ってきた貴重な特技や経験を活かした社会貢献となるよう、児童や教諭の力になることができればと地域の学校支援を目的として活動をしています。
隊員に対して学校から定期的なお知らせを通じ、共通の行動とステップを周知し、共に歩んでいることを実感する。技術資料等の配布、セミナーへの参加等により魅力的なものとした。ボランティア活動は個人単独では達成できないが、皆でやれば大きなものもで

②参考資料等

校内の樹木の配置、校舎の配置図、家庭でできる簡単な剪定、隊員の登録リスト、校内作業時の心得、作業案内と協力の呼びかけ、改善についての計画書(校内)

※ 活動指導案作成のための準備物 ： ①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

















活動指導案

実践団体名　高塚台2丁目自主防災会

■基礎データ

① タイトル	子どもの登下校時の見守り
② 活動の概要	「挨拶声かけ運動」を日常の子どもの登下校時の見守り時に実施する
③ 目標・ねらい	大きな声で相手の目を見ての挨拶の励行習慣をつける
④ 活動で上げることができる力・能力	①人と対面し、はっきりとした「おはよう」という言葉の発生、②積極的な行動習慣
⑤ 対象者（受ける側）	小学生（1年～6年）
⑥ 活動・作業形態	グループ（列の前後左右を注意しながら安全に登校・下校を管理する）
⑦ 準備するもの（道具、材料等）	誘導旗、グリーン帽、ジャンパー、防犯チョッキを着用の上、活動する
⑧ 所要時間	朝7:20～8:10（50分前後）、および下校時（下校時は学年により時差がある）
⑨ 必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	14名（男女を問わず子ども好きな大人、安全・安心確認に注意しながら誘導できる大人）
⑩ 必要経費（所要額、財源）	ジャンパー他のユニフォーム代として1人5000円、日頃の活動における必要経費はゼロ

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 登校時 集合場所（学校指定）に集まる	集合場所は複数箇所（本自治体は4箇所）あり、事前に割り当て、隊員の協力を得る	集合場所に一番近い隊員が、その集合場所の担当になる	各集合場所に1～4名の隊員が出発10～15分前に到着する	各集合場所の出発時間は学校からの距離によって違うので、隊員間で情報共有しておく			
② リーダーと共に所定の時間に出発する	リーダーは小学校の高学年生がつき、隊員はあくまで見守りに徹する	子どもたちは相互に、そして隊員に挨拶をする	朝の声出しは一日のきれいな声で始まる	口数の少ない子には積極的に隊員から声かけするよう努める			
③ 学校に向けて移動する	縦二列で列をみだす事の無い様に、子どもも隊員も注意しながら進む	信号との関係からなるべく前後をつめて、1回の信号で横断する様にする	学校前の最後の大きな交差点で、交差点担当の隊員との大きな声での挨拶を習慣化する				
④ 校門に向かって	2名以上の隊員が同行するときは前後に廻って誘導する	各4部団の隊員は、無事集合場所まで送り届けて、朝の子どもへの役目が一段落する	4部団が入門してから、隊員は揃って帰路につく				

⑤	帰路において	入門させてからその日の隊員が一緒になった時、連絡事項等あれば隊長他から伝える	その後、雑談等をしながら適宜解散する	10～14名全員がユニフォーム姿で活動するので、犯罪の抑制力に大いに役立っている					
⑥	下校時 下校時は学年により時差がある	時差は13時～16時まで幅があるので、特に低学年を中心に見守りをする	校門まで一部団の隊員が迎えに行き、担当区域に向かう	下校時は子供の楽しい時間でもあり、バラバラになりがちなので、配慮が必要となる	学校前の大きな交差点での立哨で安全に帰路につかせる				
⑦	リレー見守りを実施する	各隊員は4～5箇所の下校ルートに立哨し子どもの帰りを待つ	坂があるため、隊員が旗振りにより、次の隊員への見守りを合図する	下校時は一斉ではないので、道路上見える場所に隊員が立つように努力する					
⑧									
⑨									
⑩									

■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

子どもたちの参加率（登下校の見守りを始めて7年経過し子どもたち全員100%参加で今に至る）

②その他の評価

地域防犯活動の継続（現在は自主防犯パトロール隊15名が現在活動（総隊員37名）

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

見守りパトロール隊の組織づくりによる隊員定着が大前提（結成以来7年経過）

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物 ： ①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

登下校の途中で防災訓練も。



いつものおじさんおばさんの顔に安心。



交差点では誘導もしてくれます。



活動指導案

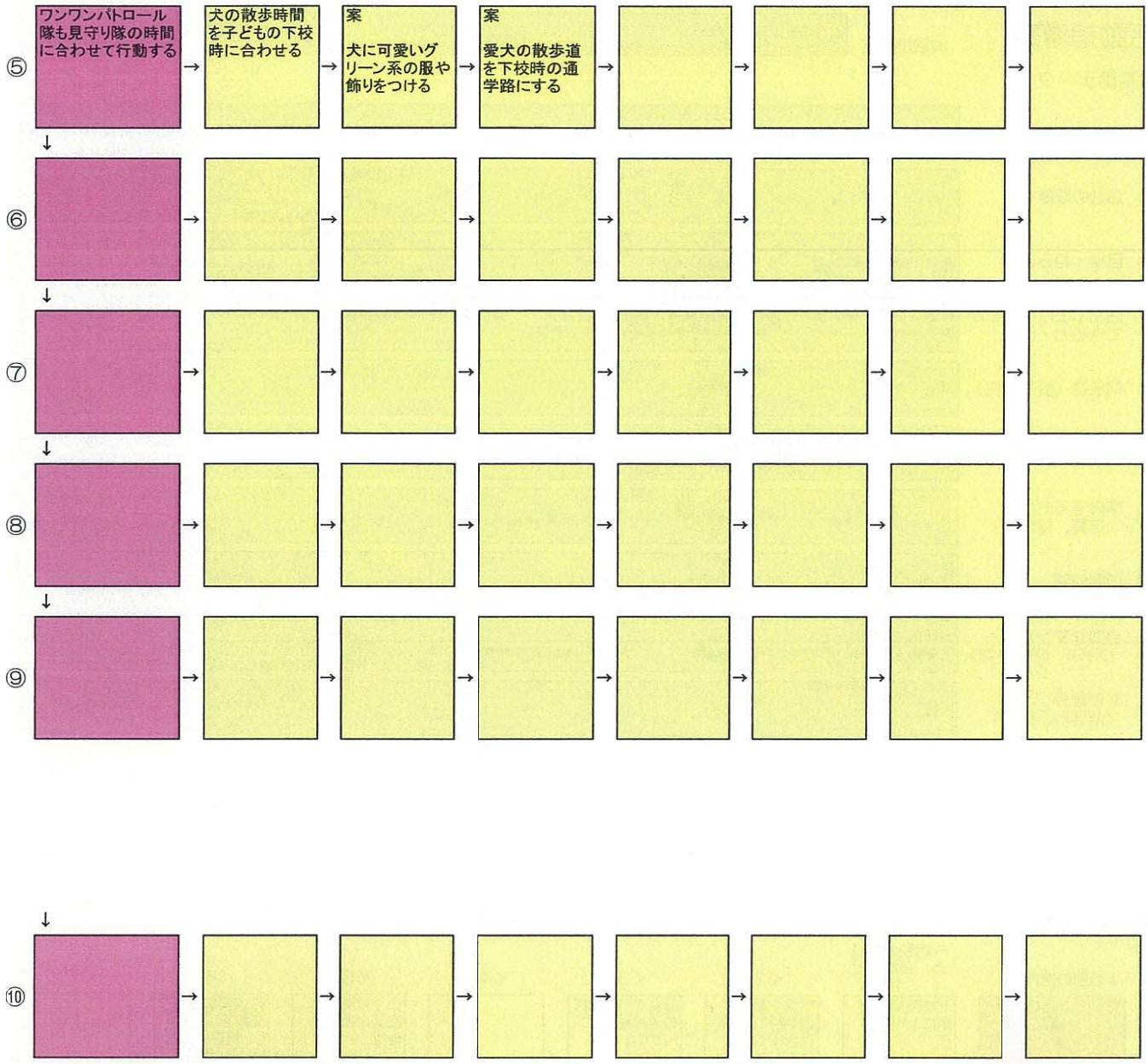
実践団体名　高塚台2丁目自治会

■基礎データ

① タイトル	児童下校見守り(リレー方式による見守り)
② 活動の概要	高齢化しつつある見守り隊の負担を少なくしつつ、効率良く子どもたちを見守る。
③ 目標・ねらい	下校する児童を少しでも安心して安全に帰宅できるよう見守ること。
④ 活動で上げることができる力・能力	当地域は坂道ばかりの(結構急な坂道が多い)ため、高齢化しつつあるパトロール隊の移動距離を少しでも減らし、少人数でも効率よく児童の下校を見守ることができ、持ち場間の隊員同士の交流も深まる。
⑤ 対象者（受ける側）	地域の小学生
⑥ 活動・作業形態	児童通学路における見守り活動をリレー形式で行う。 既存のワンワンパトロール隊と協力し、散歩の時間を下校時に合わせる。
⑦ 準備するもの（道具、材料等）	グリーン帽、グリーンジャンパー、防犯ベスト、旗(交通安全用)など
⑧ 所要時間	児童下校時の約30分 下校時間帯　A.12:00　B.13:00　C.14:15　D.15:00　E.16:00
⑨ 必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	地区の広さによる 責任感があり子ども好きで思いやり深い方。奉仕精神が旺盛な方大歓迎！
⑩ 必要経費（所要額、財源）	不要

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 児童下校時に各ポイントで見守る	下校時間は学年により異なる。 主に低学年を重点的にしている	学校行事予定表(学校より提供されている)により、低学年児童の下校時間を把握する	隊員の自宅近くの通学路ポイントにて立哨		※下校時間に変更がある場合は 学校→隊長→事務局→隊員と連絡する	隊員間の情報交換をしっかりし、間違いのないようにする	
↓							
② リレー見守りのポイントを決める	通学路に5～6か所の立哨ポイントを決める	隊員同士がお互いの姿が見える位置にポイントを決める	坂の上、坂の下などのポイントを考え、隊員の移動距離を短くする				
↓							
③ リレー見守りを行う	児童が通過したら、次のポイントの隊員に旗を振って知らせる	これを繰りかえす	低学年はなるべく家やマンション近くまで見送るようにしている 保護者の協力も不可欠	下校は一斉ではないが、なるべく道路がみえる場所に立つ	信号のない交差点を通ることもあるので、児童が歩行できるよう見守りは忠実に行う		
↓							
④ 問題点の定義(反省)など	学校、PTA、防犯パトロール隊の定期会合により討議	防犯パトロール隊の会議により、相互の意見を出しあい共有化を図る	日常会話の中での話し合い(隊長と隊員、隊員同士)				
↓							



■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

朝の見守り活動は4部団8～12名に対し、下校時の見守りは5～6名と減少する。原因が家庭の雑用や所用などと重なる時間であるからか？また、午後の散歩は4時（16時）以降が多く、時間がかみ合わないのも原因。こうした理由により、少人数となった見守り隊員でもこの方法を用いれば、効率良く活動できている。

②その他の評価

足腰が弱っている隊員なども負担が少なく、活動に参加しやすい。また、参加している仲間にも喜ばれている形態である。やはり、坂道の登り降りは体力的にキツイ場合があるので、無理して長距離を移動するよりも効率が良い。

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

無理のない範囲で自宅近くにある立哨ポイントに立ち、参加すること・子どもたちとのあいさつやふれあいを楽しむ。

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物 ： ①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

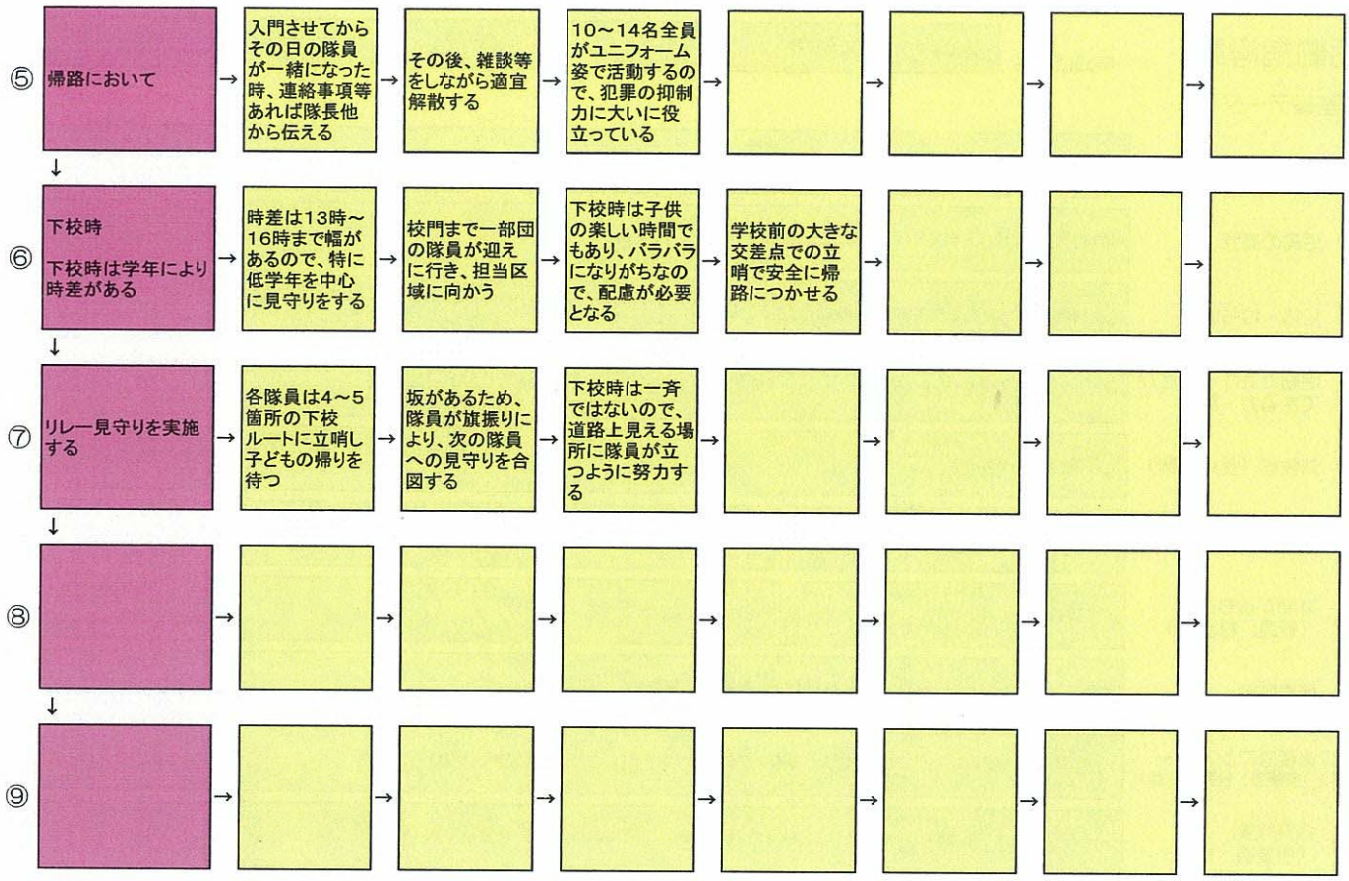
実践団体名　高塚台2丁目自治会

■基礎データ

①	タイトル	子どもの登下校時の見守り
②	活動の概要	「挨拶声かけ運動」を日常の子どもの登下校時の見守り時に実施する
③	目標・ねらい	大きな声で相手の目を見ての挨拶の励行習慣をつける
④	活動で上げることができる力・能力	①人と対面し、はっきりとした「おはよう」という言葉の発生、②積極的な行動習慣
⑤	対象者（受ける側）	小学生（1年～6年）
⑥	活動・作業形態	グループ（列の前後左右を注意しながら安全に登校・下校を管理する）
⑦	準備するもの（道具、材料等）	誘導旗、グリーン帽、ジャンパー、防犯チョッキを着用の上、活動する
⑧	所要時間	朝7:20～8:10（50分前後）、および下校時（下校時は学年により時差がある）
⑨	必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	14名（男女を問わず子ども好きな大人、安全・安心確認に注意しながら誘導できる大人）
⑩	必要経費（所要額、財源）	ジャンパー他のユニフォーム代として1人5000円、日頃の活動における必要経費はゼロ

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 登校時 集合場所（学校指定）に集まる	集合場所は複数箇所（本自治体は4箇所）あり、事前に割り当て、隊員の協力を得る	集合場所に一番近い隊員が、その集合場所の担当になる	各集合場所に1～4名の隊員が出発10～15分前に到着する	各集合場所の出発時間は学校からの距離によって違うので、隊員間で情報共有しておく			
② リーダーと共に所定の時間に出発する	リーダーは小学校の高学年生がつき、隊員はあくまで見守りに徹する	子どもたちは相互に、そして隊員に挨拶をする	朝の声出しは一日のきれいな声で始まる	口数の少ない子には積極的に隊員から声かけするよう努める			
③ 学校に向けて移動する	縦二列で列をみだす事の無い様に、子どもも隊員も注意しながら進む	信号との関係からなるべく前後をつめて、1回の信号で横断する様にする	学校前の最後の大きな交差点で、交差点担当の隊員との大きな声での挨拶を習慣化する				
④ 校門に向かって	2名以上の隊員が同行するときは前後に廻って誘導する	各4部団の隊員は、無事集合場所まで送り届けて、朝の子どもへの役目が一段落する	4部団が入門してから、隊員は揃って帰路につく				



■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

子どもたちの参加率(登下校の見守りを始めて7年経過し子どもたち全員100%参加で今に至る)

②その他の評価

地域防犯活動の継続(現在は自主防犯パトロール隊15名が現在活動(総隊員37名)

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

見守りパトロール隊の組織づくりによる隊員定着が大前提(結成以来7年経過)

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物 ： ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

登下校の途中で防災訓練も。



いつものおじさんおばさんの顔に安心。



交差点では誘導もしてくれます。



活動指導案

実践団体名　高塚台2丁目自治会

■基礎データ

①	タイトル	消火栓探し　親子スタンプラリー
②	活動の概要	地域に配備してある消火栓の位置を、親子で協力しゲーム感覚で探し出す
③	目標・ねらい	①消火栓の位置を知る、②消火器の取り扱い方を知る、③家庭での防災に関する話題づくりを行う
④	活動で上げることができる力・能力	①初期消火の知識、②防災意識の高揚
⑤	対象者（受ける側）	地域住民（親子）（子どもは小学生（低学年～高学年）を対象）
⑥	活動・作業形態	グループ（親子）、個人での参加も可能
⑦	準備するもの（道具、材料等）	参加案内文書、実施要領書作成、地図2枚（消火栓場所あり・なし）、スタンプ、スタンプ用紙、景品
⑧	所要時間	①事前準備（文書・地図作成等：1日～2日、備品・景品準備：半日）、②本番：半日、③事後処理：2時間
⑨	必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	対象者30人程度、実施者（事務局3人、スタンプ係15人（スタンプ箇所数とリンク）、見守り係3～5人、水消火器担当3～5人）
⑩	必要経費（所要額、財源）	文書・地図作製費、スタンプ代、景品代等（高塚台2丁目自治会より助成）

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 案内文書の作成と配布	案内文書「スタンプラリー」の進め方を作成する	自治会を通して案内文書を配布する	人集めをする。	子供への働きかけをする。・ボランティアパトロール隊・自治会・子供会・PTA			
② 実施要領書の作成	1.消火栓配置図、2.消火栓探し対象エリア図を作成する	3.班分け表、4.スタンプ用紙、5.景品等を準備する（県の景品等を利用）	役割分担をする・水消火器、・スタンプ係、・見守り係等を決める				
③ 各種団体への協力依頼	自治会の交通防犯担当に参加者募集、助成会、スタンプ係等を依頼する	ボランティアパトロール隊に参加者募集、見守り係等を依頼する	子供会、PTA、区役員、老人会へ参加者募集、事務局補助等を依頼する	河合町に全般アドバイス、文書作成等を依頼する	消防関係（消防署、女性消防隊）に消火栓・消火器の取り扱い方法、紙芝居等を依頼する		
④ スタンプラリーの実施	各係の役割や活動場所を再確認する	スタート準備として、参加者チェック・ルール説明・注意事項を伝える	スタート！見守り隊から配布された地図を元にして消火栓を探す	参加者が子供だけもしくは低学年の子供が多い場合は、見守り隊が子供の安全を確保する	スタンプ係は子供たちが来たら、声をかけてあげながらスタンプを押す	ゴール！5箇所のスタンプを集めた子供からスタート地点に集合し事務局から景品を受け取る	消防（消火栓取扱、消火器取扱）

⑤	実施する－1	事務局を設置して、スタンプ係・見守り隊に概要を説明する	スタンプ係が配置につく	見守り隊が子ども達に地図を渡す	子ども達が消火栓を探し始める	(参加者が子どもだけ、もしくは低学年の子どもが多い等の場合)見守り隊は子どもの安全を確認する	スタンプ係は子ども達が来るとスタンプを押す	5つのスタンプを集めた子から事務局へ帰って景品を受けとる	
⑥	実施する－2	消火栓の構造を確認する。蓋の開け方、ホースの装着法、注意事項等を伝える	消火器の取り扱い法を学んだ後、水消火器を使用した的当てゲームで子供の興味を引く	紙芝居、簡単なクイズ等で盛り上げる	各家庭で保管してもらう消火栓配置図を配布し防災意識を高めてもらう				
⑦	評価する	実施予定時間内に修了することができたか？	参加者から「的当てゲームが面白かった」「消火器の使い方がわかった」等の興味を持った感触が得られた	参加者から「消火栓の上に車を止めてはいけない」等の気づきの声があがったか？					
⑧									
⑨									
⑩									

■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

簡単なテスト・クイズを実施し評価する

②その他の評価

消火栓の位置、役割、使い方が理解できる。 参加者から興味が持てたという感想が得られたか？ 気づきの声があがったか？

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

「防災といわない防災」を考える、子ども達をひきつけるメニューを考える(低・中・高学年別)

②参考資料等

NPO法人プラス・アーツさんのホームページを参考にして実施しました

※ 活動指導案作成のための準備物 ： ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

消火栓を探して親子でウロウロ。



ホースはこんな風に格納されてます。



消火栓の蓋をあけると・・・。



水消火器で的に当てるんだ！



女性消防隊(ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ)の紙芝居。



防災に関するクイズ。わかる人は手をあげて～。



活動指導案

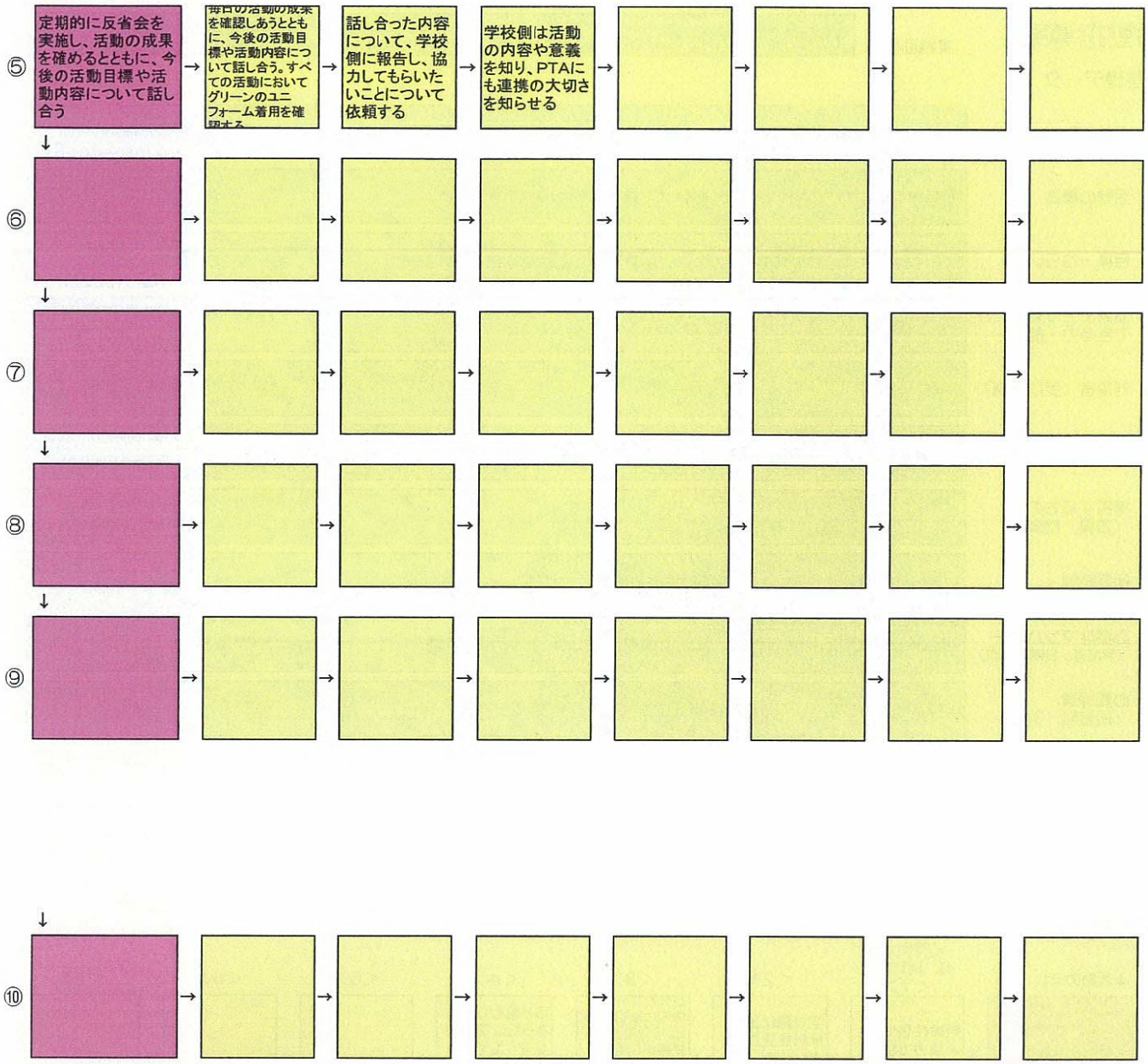
実践団体名　高塚台2丁目自治会

■基礎データ

① タイトル	地域の小学校と連携する
② 活動の概要	「校区内の小学校児童の見守り活動」を通して学校と地域との連携を実現させる
③ 目標・ねらい	痴漢・わいせつ・その他児童犯罪へのゼロチャレンジ
④ 活動で上げることができる力・能力	大人に対する人物の見方を養う・子どもとの対話能力を養う
⑤ 対象者（受ける側）	地域住民と児童
⑥ 活動・作業形態	学校活動における地域の関与（学校との信頼関係づくり～登下校時の見守り活動や学校行事への参加を通して～）
⑦ 準備するもの（道具、材料等）	防犯ユニフォーム
⑧ 所要時間	見守り（登校時50分前後）、その他学校行事への参加（2～3時間）
⑨ 必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	地域からの参加者は10名程度（特に民生・児童委員は参加）　教員・学校側の指導方針、子どもたちの態度も重要
⑩ 必要経費（所要額、財源）	ユニフォーム一式5000円以外、特になし

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 学校との接点をつくる	地域住民に何か協力できることはないか検討する	学校側に対し、地域住民に協力してほしいことはないか、呼びかけをする	自分たちから主体的に取り組もうという活動と、学校側から要請のあった活動について、自分たちが取り組める活動を決定する	取り組むことになった活動（Ex.見守り活動）について、活動の詳細を学校側に報告する			
↓							
② 学校と「友だち」になるために	人間関係を築くために足しげく訪問し、登下校時の子どもの様子やエピソードなどを学校長に報告する	学校長から登下校時の子どもの様子やエピソードなどを学校職員や子どもに伝えてもらう	学校職員も登下校時の子どもの様子を知ることができ、見守り活動の内容に理解を深めることになる	グリーンのユニフォームを着用することにより、双方ともに声をかけやすくなる			
↓							
③ 学校とのつき合いが本物となる	登下校中の子どもたちの言動について、良い所や悪い所を伝えて、悪い所については学校で指導してもら	学校側は職員を通じて地域の方々の思いを伝え、悪い所については、直すように指導する	学校側は子どもに対する指導を行うとともに見守り活動時に更に注意深く見守ってもらいたい点について要請する	お互いの見方、考え方を伝え合い、協力し合うことによって、信頼関係を深めていく			
↓							
④ 年間行事に参加し、更に「一役買う」ことによって地域の存在理由を作る	授業参観日や学校行事に参加し、登下校時の子どもと教室（学校）での子どもとを見比べる機会を持つ	授業や学校行事の中で、更に協力できることがあれば、学校側に提案する	学校側も授業参観や学校行事に参加して下さる方々に協力してもらいたいことがあれば協力要請する	子どもは登下校時だけではなく、常に地域の方に見守られているという実感を得ることができる			
↓							



■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

情報交換量や共通のめあてが増えているか

②その他の評価

学校の年間行事における地域の参加度、地域と学校との信頼関係

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

学校との顔合わせを数多く積むことが必要である。
学校側の先生方の人柄を知ることが大切。話すきっかけ、話題づくりにもつながる。

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物 ： ①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

登下校時の避難訓練は学校と連携して行うことも。



活動指導案

実践団体名：高塚台2丁目自治会

■基礎データ

① タイトル	通学合宿
② 活動の概要	地域ボランティアとともに合宿しながら、通学したり日常生活を行う。
③ 目標・ねらい	通学という日常を家族と離れて生活しながら行うことで、人のつながり、大変さ、家族の大切さ・ありがたさなどを知り、子どもたち自身の生活スキルをアップする。
④ 活動で上げることができる力・能力	家庭や学校ではない集団での生活のノウハウを得ることができる。 協力しあうことの大切さを知る。 両親、家族に対する感謝の気持ち、自弁たちを支えてくれる周囲のことを知る。
⑤ 対象者（受ける側）	地域の小学生（4～6年生） 20～30名
⑥ 活動・作業形態	地域ボランティアが先導する形で起床から通学、就寝までの24時間を家族と離れて集団生活する。
⑦ 準備するもの（道具、材料等）	子ども本人準備物：学校で必要なもの、タオル、バスタオル、洗面用具、パジャマ、ハンカチ、ビニール袋（汚れ物いれ）、着替え（日数分）、ティッシュ、エプロン、三角巾、マスク、常備薬、保険証の写し、健康ノート 主催者側準備物：布団、洗面・炊事場の増設、食材、調理道具（鍋など一式）、なんと言っても場所！（集会所や公民館）
⑧ 所要時間	3～5日
⑨ 必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	実行委員：委員長、副委員長、コーディネーター、庶務会計、記録担当（各1名）、食事担当（10名）、生活指導（6名）、物品管理（5名）、安全担当（5名）、宿泊担当（6名） 合計30～35名
⑩ 必要経費（所要額、財源）	食費5万、設備3万、消耗品5万、その他3万 財源：参加児童負担一人2,000円、県補助金 他

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 学校から提案・依頼	県協働推進課より小学校へ事業の打診（ほぼ全額補助金による事業である）	小学校校長から地域へ提案・依頼	参加募集パンフレット等は小学校にて作成・配布・回収				
↓							
② 実行委員会の立ち上げ	メンバーを募る 地域内の対応団体、人員の検討、男性・女性スタッフの確保	核になる委員 自治会・老人会・民生・地推・ボラ・サロン等の代表者	※関わった人 県協働推進課校長先生コーディネーターなど	役割分担をする 余裕をもった人数確保	参加者名簿を作成（児童・ボランティア）	実行委員と小学校で合宿内容について協議	担当したことについてはそれぞれで準備
↓							
③ 計画・準備・下見	2泊3日の予定を練る（メイン会場は地域集会所とした） 会場の広さと設備とイベント内容を照らし合わ	必要なもの・必要なボランティア人数の確保	共同浴場などの下見（歩いて行けるか、距離・時間はどのくらいかかるか）	当日までの買出しリスト作成 メニューに合わせた当日の食材などもリスト化しておく	段取りの打ち合わせも必要	イベントに夜警やお楽しみも組み入れ、子どもたちが楽しくすごせるよう考える。	
↓							
④ 参加募集	実行委員会内の担当が決定	学校と協議	学校（校長）が学内検討	パンフ作成し、学校で配布			
↓							

⑤	説明会	募集後、確定した児童の保護者への説明会	参加者 実行委員会 学校 県などの関係者 保護者	予定や内容を具体的に説明 参加児童の保険証コピー、健康ノートを預かる	質疑応答もうける				
⑥	開所式（初日）	学校から集会所に下校。この時点で全員集合	出席者 児童 学校 県など 主催側	合宿中の注意事項や説明を行う					
⑦	初日夜・二日目夜	下校見守り後、簡単なおやつ。宿題・自習	お風呂班・買出し班に分かれて出発	夕食作り・夕食・後片付け	郷土の話・夜警など キャンドルサービス・肩たたき・講話・ゲームボールなど	各自布団を敷く（同じものを使うので、名札を自分でつける）	就寝 男女に分けて就寝するので、ボランティアも男女が宿泊	夜中に見回り 空調による体調管理に気をつける（健康ノートから個々の体質等に配慮）	
⑧	二日目朝・最終日朝	起床・布団片付け・身づくろい・ラジオ体操	朝食は一日は洋食・一日は和食をバイキング形式で提供	朝食片付け後、登校（ボランティアはそのまま通学路見守り）					
⑨	最終日（土曜日とした） 閉所式	登校しないので、竹細工でコースターなどを製作。 家族におみやげとして…。	閉所式 参加者 県、校長、実行委員、保護者	保険証コピー、健康ノート					
⑩	反省	子どもたち・保護者・学校・ボランティアなど、関わった人に事後アンケート	アンケート結果をまとめ、ボランティアで反省会兼打ち上げ						

■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

②その他の評価

子どもたちのアンケート回答によると、家族への感謝やおじいちゃん・おばあちゃん世代との交流、笑顔で迎えられることの感動などが心に残った様子。保護者からは集会所を利用しての宿泊に抵抗があったとの意見も出ていたが、概ね子どもが大きく成長したことや親が子どもを大切な存在として再認識したなどの意見もあり。普段の見守りでも子どもたちの挨拶などの反応が良くなった。

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

今回の事業では学校からの依頼を1人で受け、地域に持ち帰らずに独断で実行決定し、決行を持ち帰ったため、あちこちで無理があった。夏休み前に開催したい旨の打診があったため、無理を承知で以来を受けたが、本来は依頼を受けてから仲間内で話し合いの時間を設け、決定するべきだったというのが反省点。また、補助金があったので、計画から清算まできっちりとした管理と運営、清算などの業務が大変なので、留意。
高齢者に近いボランティアばかりだったので、若い世代の手伝いもあった方が良い。また、保護者アンケートには次回があるなら手伝いたいとの意見もあり、広くボランティアを募るのも良い（当方では時間がなかったため、連絡のとれる仲間だけで対応した）

②参考資料等

住民の好意で撮影・編集されたビデオあり（保護者説明会～実行終了まで）。

※ 活動指導案作成のための準備物 ： ①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名　高塚台2丁目自治会

■基礎データ

① タイトル	児童下校時の不審者対応
② 活動の概要	下校時に挙動不審者が現れた場合を想定し、「110番の家」家人や警察も参加し、公園で不審者に声をかけられたら「こども110番の家」に駆け込み助けを求めれば、家人から警察に連絡してもらえ、保護してもらえることを子どもたちが知る。
③ 目標・ねらい	子どもたちが不審者への対処方法を知る。 子どもたちが「子ども110番の家」が何であるかを知る。 地域住民の見守り意識の向上。
④ 活動で上げることができる力・能力	狙われかけたときに大きな声が出せるようになる。 「子ども110番の家」へ駆け込むことの習慣化。
⑤ 対象者（受ける側）	校区内の小学生
⑥ 活動・作業形態	「子ども110番の家」の旗を掲げている地域住民とその家。 警察協力による犯人役づくり。 警察署生活安全課からのパトカーの出動。
⑦ 準備するもの（道具、材料等）	子ども役の子ども2名（できれば高学年1名・低学年1名（実の姉・弟で実施した）、子ども110番の家（インターホンがある方が良い）、子ども110番の家家人
⑧ 所要時間	訓練所要時間30分程度
⑨ 必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	実演者2名、犯人役1名、子ども110番の家在宅者1名
⑩ 必要経費（所要額、財源）	不要

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 小学校に訓練内容を説明する。	知らない人（不審者）から声をかけられたとき、どのように対応するかを教えるのが目的。	さらわれかけたとき（浚われたとき）大きな声を出せるようにする。	「こども110番の家」を子どもたちが知っており、きちんと把握しているのか？に留意する。	訓練することで意識と行動を向上させるようにもっていく。			
② 警察に相談。	いざというとき、警察は子どもたちの味方だと子どもたちに知ってほしい。	犯人役は普段見守り等をしている近所のおじさんでは不適切。	警察から犯人役を出してもらう。（顔を知らない不審者）	実際にパトカーや警官が参加することで住民の安心感や信頼感を増幅することも期待できる。	地域小学校と警察が身近になるチャンスでもある。		
③ 日時・内容の決定。	いつ・どのように実施するかを決める。	校区内全てで同時進行はできないので、場所を絞って計画する。	以降、校区内の公園や近隣で持ち回りするのも良い。				
④ 具体的な内容・進め方を決める。	配役の決定。 高学年1名 低学年1名 犯人役1名 110番の家人1名	子ども役をお願いするお宅のご両親にも了解を得る。	110番の家は実施する公園等の近くの家・（理解のある）家人が適当。				

⑤	訓練を行う。	小学校に児童の見学を依頼しておく。	子どもたちに「もし、自分だったら…」を意識させる。	※校長先生の話などがあっても良い。					
⑥	事後検証。	犯人はどんな人相？	犯人はどんな服装？	犯人の背の高さは？	犯人に関する子どもたちの記憶をチェックするため、子どもに発表させる。	あわてたときの記憶力や記憶がどんなものであるか、子どもたちに知ってもらうことも良い。	もし自分だったら？の再確認。		
⑦	講評。	最後に、警察の方かパトロール隊隊長から一言。							
⑧									
⑨									
⑩									

■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

校区で実施とはいえ、あまりに人数が多すぎると見学できなかったり、真剣さに欠けるので、見学者50-60名くらいまでが妥当。人数が多くなるようであれば、場所・日時等をわけて行うなどの工夫をした方がより効果的。本当に知らない人（警官など）に声をかけられることで、子どもが危機感を持つようになる。

②その他の評価

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

学校・地域・警察の根回しのため、平生からの「おつきあい」が大切。それができていれば何事もスムーズに事が運ぶ。

②参考資料等

きっかけは、「地域の公園等で子どもたちが安心して遊べればよい」という思い。普段から防犯灯の球切れに気を配り、公園まわりの植樹が高すぎたり茂りすぎたりしていれば行政に声をかけ、公園内の安全を少しでも向上させることができれば…。→また、「子ども110番の家」が風化し、子どもたちにきちんと理解されていない（根付いていない）のではないかとの危惧もあった。

※ 活動指導案作成のための準備物 ： ①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

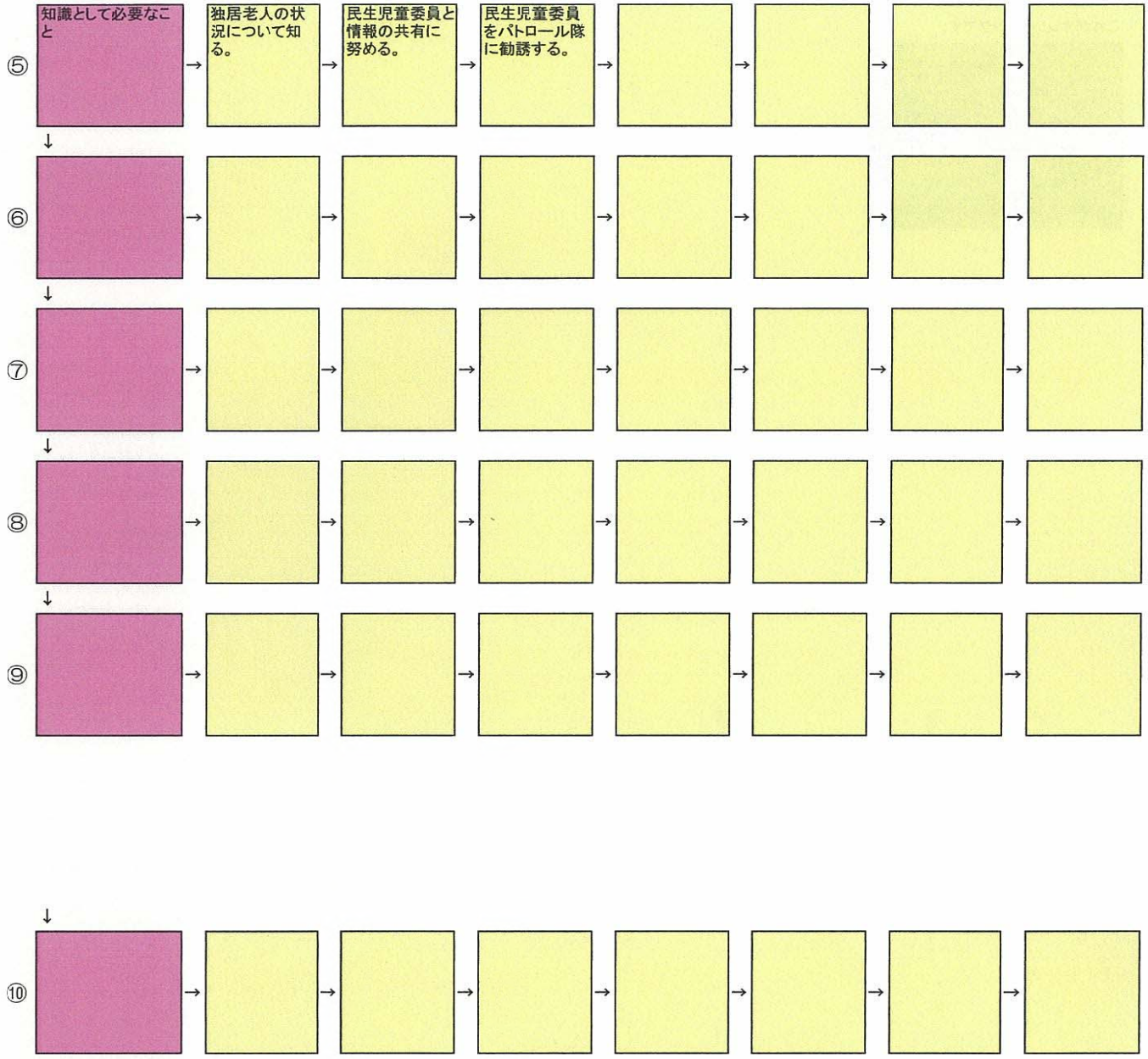
実践団体名　高塚台2丁目自治会

■基礎データ

① タイトル	徘徊している認知症の方を保護するサポーター（オレンジリングの携帯者）
② 活動の概要	地域内の徘徊者の発見・保護
③ 目標・ねらい	徘徊者を無事に自宅に送り届ける。尚、民生児童委員と独居老人等の情報を共有する。
④ 活動で上げることができる力・能力	オレンジリングを着用することで認知症サポーターであることが一目でわかり、周りに共通認識及び安心感を与えることができる。また、サポーターとなるためには社会福祉協議会の地域包括支援センターの研修を受講しなければならないが、それによってサポーターとしての知識やノウハウを取得できる。
⑤ 対象者（受ける側）	高齢者並びに道に迷うなど、徘徊しておられる認知症の方。
⑥ 活動・作業形態	対象者を発見した時、最寄の協力者の家に協力を求め、警察へ保護の要請をする。協力者に関しては、「子ども110番の家」にあるような対象者を拡大した「地域110番の家」を提案中。
⑦ 準備するもの（道具、材料等）	通常のパトロール時のグリーン帽・ジャンパー（ベスト）・チョッキ・腕章・オレンジリングを着用する。（普段活動している服装が相手や協力者が安心することができる）
⑧ 所要時間	個人が地域内の各々の活動中にフォローするので定めていない（自由）。
⑨ 必要なマンパワー（実施者、役割、人数）	隊員中現在15名が献身的に活動しいるが、最低・最高の人数や役割は特に定めていない。
⑩ 必要経費（所要額、財源）	特に必要なし。

■活動の流れ

↓活動の流れ	→活動の留意点、資料など <1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>
① 地域の認知症サポーター研修会に参加するか、出前講座などによる研修会を開く。	認知症を理解する。	認知症の人や家族を暖かく見守り支援する。	防犯パトロール中に実践する。				
② パトロール中の実践。	子どもの見守り時はもちろん、ワンパト（犬の散歩）・サンパト（散歩）時に留意しておく。	いつ発見するかわからないので、常に周囲に目を配ることが必要。	発見した場合、まずその方の前に出て、そっと声をかけ、やさしく誘導する。	「散歩ですか？」など、具体的な言葉で目線を合わせて声をかける。	横や後ろから声をかけると驚いて転倒する場合があり骨折など怪我につながるので注意が必要。	名前や特徴などを確認しましょう。	
③ 具体的に認知症かどうか当たってみる。	「アルツハイマー型」と「脳血管性」の違いはあるがいずれも認知症という病気である。	「家に帰るの？」と話しかけても目が虚ろであれば自宅への誘導は無理と判断する。	近所の協力者（110番の家など）を探しながら、その家まで手をつないで誘導。協力を求める。	手はつないだまま、離さないで協力者に警察への連絡をお願いする。	パトカーが来るまで協力者の家の玄関などで待たせてもらう。	パトカーに保護を引き継ぐ。	
④ 常に心がけること	びっくりさせない。声は正面からかける。（相手が安心する）	目線（背丈など）は相手に合わせる。	ゆっくり話すと言葉がでやすい。	急がせない。ゆっくり歩いてあげましょう。	本人の自尊心を尊重する。	ニコニコ笑顔を忘れない。	一緒に歩いている間、いろいろな話題をだしてみましょう。



■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

パトロール隊員の増員や隊員中のオレンジリング所持者の増加は地域にとって心強いものとなる。人数は多ければ多いほど活動する側も地域も安心できるだろうし、サポーター隊員個人に対する負担は減ることになる。地域ぐるみで活動できることが何よりの評価。

②その他の評価

各パトロールと平行して行うので、評価は難しい。現在まで活動してきて、「地域110番の家」のような協力者が必要であることが浮き彫りになってきているので、サポーター以外にもそういった活動や体制を広く知ってもらう必要がある。そのようなことに気づき、実践していくことは評価に値すると思われる。

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

オレンジリング所持者としての自覚を持って、高齢者及び認知症などの徘徊者に気をつけておく。発見・保護はいつ遭遇するかわらないので、常に周囲に目を向けることが必要。
各種・各自のパトロールに組み込んでの活動として習慣化することもコツ。
この活動は意識の問題です。

②参考資料等

話題の探し方として。「木戸たててかけせし衣食住」
き:気候　ど:道楽　に:ニュース　た:旅　て:天気　か:家庭　け:健康　せ:姓（性）　し:趣味　衣:衣料　食:食物　住:住宅

※ 活動指導案作成のための準備物 ： ①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

これがオレンジリングです。

